

取扱説明書 Ver 1.11

SET-950
リゲルPro.ストーブプラス



この度はスノーピーク製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この製品はシェルター内で薪ストーブを安全に楽しむための製品です。通常のシェルターとは違い燃焼時に薪から発生する一酸化炭素を効率よくシェルター外に排出する構造を持っており、内部での一酸化炭素中毒を引き起こさないよう配慮された特殊シェルターとなっていますので、安心してご使用いただけます。しかし本製品は取り扱いを誤ると人命に危険を及ぼす可能性を持っており、事前に一酸化炭素や、ストーブに関する知識を得る必要があります。誤った使用による大きな事故を防ぐため、本製品の取扱説明書を受けた上、本取扱説明書をよく読み、十分に理解した上でご使用いただくようお願いいたします。説明内容が理解できない点及び製品に不具合が確認された際には直ちに使用を中止しご購入いただきました販売店様もしくは弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。また、今後もスムーズかつ安全に製品をご使用いただくために、取扱説明書は大切に保管してください。

目次

一酸化炭素中毒による危険性について	1
安全上の注意事項	2
内容物の概要	4
◆ シェルターについて	
セット内容	5
フレーム構成	5
各部の名称	6
スペック	7
◆ ストーブについて	
セット内容	8
各部の名称	9
スペック	10
◆ 一酸化炭素チェッカーについて	
セット内容	11
各部の名称	11
スペック	11
設営前チェックリスト	12
◆ 設営方法	
初めてお使いになる前に	13
シェルター設営の手順	13
グランドシートの取り付け方	20
インナールームの取り付け方	21
ストーブ組立の手順	22
一酸化炭素チェッカーの取り付け方	30
サイドアパネルの固定	30
使用前チェックリスト	31
◆ 操作方法	
一酸化炭素チェッカー	32
ストーブ	33
◆ 使用方法	
ストーブの使用方法	35
シェルター内の照明機器の使用について	38
撤収方法	39
異常燃焼時の対応について	40
強風時の対応について	40
◆ メンテナンス方法	
一酸化炭素チェッカー	42
ストーブ	42
シェルター	45
品質保証について	46
修理について	46
チェックリスト	47

一酸化炭素中毒による危険性について

燃焼している薪からは一酸化炭素と二酸化炭素などが発生しています。酸素が多い状態では二酸化炭素が多く発生し、酸素が不足した状態になりますと一酸化炭素が多く発生します。特に密閉空間では、酸素の少ない状況になりやすいため、一酸化炭素の濃度が高まり、中毒症状が起こりやすくなります。一酸化炭素は毒性があり人体に悪影響を与え、吸引の度合いによっては死亡につながる大変危険な物質です。一酸化炭素は無色透明、無臭の為、存在が分かりにくい物質であるため、ストーブを使用する場合には、事前に吸引しにくい状況をつくる必要があります。

●一酸化炭素による人体への影響

一酸化炭素濃度	単位: ppm	吸引時間／症状
0.02%	200 ppm	2~3時間内に軽い頭痛
0.04%	400 ppm	1~2時間で前頭痛、2.5~3.5時間で後頭痛
0.08%	800 ppm	45分で頭痛、めまい、吐気、2時間で失神
0.16%	1600 ppm	20分で頭痛、めまい、2時間で死亡
0.32%	3200 ppm	5~10分で頭痛、めまい、30分で死亡
0.64%	6400 ppm	1~2分で頭痛、めまい、10~15分で死亡
1.28%	12800 ppm	1~3分で死亡

※幼児の場合はより低い濃度で死亡し得るという報告もあります。 経済産業省 高圧ガス保安協会「CO中毒事故防止技術」抜粋

安全上の注意事項 ご使用の前によく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

■ SET-950

⚠ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- 指定されたシェルターとストーブ以外の組み合わせでは絶対に使用しないでください。指定された組み合わせ以外で起きた事故やトラブルにおいては、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
 - 初回使用時はストーブ製造時に付着した油などから煙が出ることがあります。初回使用時の際はシェルターのメッシュ・サイドアパネルを全開にしてストーブの燃焼室に十分に薪を入れた状態で3時間程度燃焼させてください。付着している油を焼き切ることができます。
 - ストーブをシェルター内で使用する場合、一酸化炭素中毒の危険があります。絶対に密閉状態で使用しないでください。TCフルフライのベンチレーションと換気窓は必ず開けてください。
 - シェルター内でガス缶およびその他燃料を使用する燃焼機器・ランタンは使用しないでください。※着火用のライター及びマッチはご使用いただけます。
 - ストーブには、着火時の着火剤を使用する場合を除き、天然木の薪以外を絶対に使用しないでください。薪以外のものを燃やすと異常燃焼により一酸化炭素の発生や爆発、火災につながるおそれがあります。(例:プラスチック、紙類など)
 - 燃焼時、着火剤の継ぎ足しはしないでください。炎が燃え移り、大変危険です。
 - 付属の一酸化炭素チェッカーは必ずご使用ください。
 - 付属の一酸化炭素チェッカーが故障状態になった場合、直ちにストーブのご使用を中止してください。電池が切れた場合は電池を交換してください。詳しくは一酸化炭素チェッカーの取扱説明書をご確認ください。
 - ストーブのご使用中は、ストーブから目を離さないでください。一酸化炭素チェッカーが危険警報を発した際には直ちにシェルターの外に出てください。
 - 万一の事態に備え、出入口の荷物はつねに整理し、避難経路を確保してください。
 - 天候により危険を感じる場合は速やかに撤収して安全な場所へ避難してください。お出かけの前に気象情報を十分に把握しておき、悪天候が予想される場合や、使用中に風や雨(雪)が強くなってきたら使用を中止してください。
 - ベンチレーションを塞ぐ可能性がある雪中及び降雪が予想される状況ではつねにベンチレーションが塞がれていないか確認し、塞がれている場合は除雪してください。
 - 降雪が予想される状況においては、定期的にシェルターに積もった雪を除雪してください。雪の重みでフレームに負荷がかかり製品が破損するおそれがあります。
 - 雪上での設営時は、シェルターの設営場所をしっかりと圧雪してください。また、ストーブ設置場所は除雪を行い、ストーブの脚部が地面にしっかりと接地していること、煙突が取扱説明書通り組付けができるか確認してください。組付けができない場合は、設置場所を変えてください。
 - 就寝時は「就寝時の操作」を必ずご確認ください。
 - 燃えやすい地面や植物の上での使用は火災の危険があります。必ず付属の遮熱シートを使用してください。ご使用前に遮熱シートに穴あきなどの劣化がないことをご確認ください。
 - 子供やペットがストーブに近づかないように注意してください。ヤケドやその他の危険を避けるため、厳重に監視が必要です。
 - ストーブを組み立てた状態で移動させないでください。移動する際は全て分解して移動してください。
 - 衣類などの乾燥はシェルター内で行わないでください。ゆれて落して火がつき、火災の原因になります。
 - 本製品と併せてご使用になる各アイテムの取扱説明書を必ずお読みください。
 - 使用中、ストーブ本体のドアを開けた際にシャッターが降りてこない場合は、そのドアを使用せず反対側のドアのみ使用してください。もし両方のシャッターが降りてこなくなった場合は直ちにストーブの使用を中止してください。シャッターが降りてこない場合は炎や煙がシェルター内に流れ込み一酸化炭素中毒や、火傷のおそれがあります。

!**警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- 必ずTP-950(リゲルPro.)/SET-950(リゲルPro.ストーブプラス)の取扱説明書をよく読んでからご使用ください。
 - 公園や河川敷、キャンプ場といった公用用地でご使用の際は各自治体や管理者に確認してください。
 - 地権者(私有、公有の別なく)の許可がない場所で使用しないでください。
 - 焚火や火器等の使用が禁じられている場所では絶対に使用しないでください。
 - 調理器具の転倒および破損によるヤケド、水蒸気によりシェルター内の異常高温状態発生のおそれがある為ストーブ上での湯沸かし、調理行為は行わないでください。
 - 可燃物との安全距離(熱の影響を受けない距離)を確保してください。火の粉が飛び散り火災につながる可能性があります。ストーブは熱量が多くポケットに入れたライターなども遠赤外線効果で加熱され爆発、火災を起こすおそれがあります。
 - 傾斜地や不安定な場所での設置は避けてください。ストーブが倒れるおそれがあります。
 - すぐに手の届く場所に水などを用意しておいてください。急な火災に備える必要があります。
 - シェルター内は高温になり、熱中症や脱水症状などの危険があります。細心の注意を払ってください。
 - ストーブ設営時にはケガに注意し、以下のことを守ってください。
 - ・パーツの端部に触れないでください。
 - ・作業用の手袋を着用してください。
 - ・パーツを組み合わせるときは、手を接合部付近に置かないでください。

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 風向きを確認し、キャンプエリアや周囲の人、所有物に煙や火の粉の影響がないように配置してください。本製品由来の火の粉による損害やトラブルにおいては弊社は一切責任を負いかねます。
 - 設置場所に十分なスペースを確保してから実施してください。
 - 設置位置は必ず取扱説明書の指示する位置に従ってください。一酸化炭素チェッカーが正しく作動しないおそれがあります。また故障のおそれがあります。
 - ガソリンやアルコールなどの点火液の使用は避けてください。火災や爆発の危険が高まります。
 - テーブルトップやストーブの上に脚をのせたり、座らないでください。
 - テーブルトップの上に電子機器を置かないでください。
 - LEDランタンは指定の位置以外に設置しないでください。設置場所に関する詳しいことは取扱説明書をご確認ください。
 - ストーブの使用により、煙突から火の粉が出ることがあります。使用時は定期的にTCフルフライシートを確認し、火の粉を払ってください。火の粉が付着したままの場合、TCフルフライシートに穴があきます。

免責事項

以下の事象において、発生したケガや損害については、弊社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

- 本製品の不正確な組み立てや使用、または本取扱説明書に記載されている指示に従わない場合(火災・爆発・ケガの等の危険があります)
 - リゲルPro.ストーブプラスによって火の不始末により火災が発生し周囲に延焼した場合や周辺の方々に火の粉などによって被害がでた場合
 - 製品の改造
 - 本製品の運搬・組み立てに伴う、周囲の器物損害
 - 弊社は予告なく製品の仕様を変更する場合があります。仕様が変更された製品と古い製品を混在させて使用しないでください。

■ リゲルPro.

△ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- シェルター内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や指定外の薪ストーブは、絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は、火災や酸欠、一酸化炭素中毒などのおそれがあり大変危険です。
- シェルター内で薪以外の燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。薪ストーブの点火に使用するライター等は、薪ストーブからの熱の影響を受けない距離で管理してください。またポケットの中やテーブルの上には絶対に放置しないでください。
- 万一小物が落とした場合は、必ず拾い上げてください。落とした小物が燃えたり、火災の原因となることがあります。

△ 警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- ご使用の前に、本製品を点検し各部に異常がないことを確認してください。異常が発見された場合は、直ちに使用を中止しお買い求めいただいた販売店様、または弊社ユーザーサービス係に点検または修理を依頼してください。
- 気象状況にはつねに細心の注意を払い、悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して、安全な場所に避難してください。万一悪天候にみまわれたり、強風時などにはペグやロープがしっかりとつながれているかなどを、時々点検してください。
- 高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。火災や熱中症などの危険があります。
- シェルター内は高温になり、熱中症や脱水症状などの危険があります。細心の注意を払ってください。
- 風の吹き抜けのような場所や、雪崩、かけ崩れ、急な洪水や氾濫などのおそれのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。
- 足もとのビルディングテープ、ロープやペグ等にはご注意ください。足を引っ掛けで転倒し、思わぬ事故の原因となります。

△ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 本製品は常設用ではありません。シェルターの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 日差しによりシェルターの表面は低温やけどに発展するなどの高温になります。十分にご注意ください。
- 焚火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。設営・撤収の際には、周囲に火気がないことを確認してください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- シェルターの設営・撤収の際は、風に飛ばされないよう本体をしっかりと支えて作業してください。事故に繋がるおそれがありますのでポールを取り扱う際は必ず周囲の安全を確認して作業してください。作業は必ず2人以上でおこなってください。
- 薄い生地を使用していますので、生地を引っ張りすぎると破損するおそれがあります。ご注意ください。
- ロープを正しく張ることにより風や雨に耐える強度を得ることができます。ご使用の際は取扱説明書(本書)に従い必ずすべてのロープを張ってください。
- 指定された場所以外にLED照明を取り付けないでください。

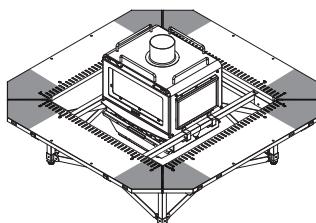
■ ストーブ

△ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- 着火や燃料としてガソリン、灯油、ガス、アルコールなどを使用しないでください。
- 天然木の薪以外のものを燃焼させないでください。爆発するおそれがあるものや、有害性ガスが発生するものを燃やすと最悪の場合死ぬおそれがあります。また、紙類など火の粉が飛散する燃料を燃やさないでください。煙突から火の粉が飛び散り、火災やテントの損傷の原因になる可能性があります。
- 2つのドアを同時に開かないでください。シェルター内の一酸化炭素濃度が上がる可能性があります。また両側から同時に薪をくべるとうまく薪を設置できずドアが閉まらなくなるおそれがあります。
- 薪ストーブの燃料に石炭、練炭、豆炭等の薪以外の燃料は使用しないでください。一酸化炭素中毒の危険性がある他、製品の損傷、火災につながるおそれがあります。
- 燃焼中、水をかけると水蒸気が発生し危険です。飛び散ったお湯でやけどをするおそれがあります。
- よく乾燥した薪以外を使用しないでください。うまく着火せずに不完全燃焼を起こし一酸化炭素が発生するおそれがあります。

△ 警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- 熱の影響を受けやすいものをストーブに近づけないでください。
- ストーブベース、その他各パーツが組み合わさり確実に固定されていることを確認してご使用ください。使用中も接合部を点検し、異常が確認された場合は使用を中止してください。転倒、火災、やけどのおそれがあります。
- テーブルトップ1枚につき耐荷重は10kgです。それ以上の物を置かないでください。
- 斜線部には重量物を置かないでください。天板が外れ重大な事故を招くおそれがあります。



- 混みあつた状態では使用しないでください。人がテント内で転倒するとストーブや煙突にぶれ、やけどのおそれがあります。

△注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- ストーブ燃焼中はストーブから離れないでください。
- ストーブ本体は熱により多少変形する可能性がございますが、本体使用に影響はございません。あらかじめご了承ください。
- 本製品はステンレス材を使用していますが、ご使用条件や熱の影響により錆が発生することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本製品はストーブの熱により変色するおそれがあります。あらかじめご了承ください。
- 構造上シェルター内に煙突とシェルターの隙間から雨が入ってくる可能性がございます。
- 異常燃焼や本体の破損等の異常を感じたら使用しないでください。
- 燃焼中に持ち上げたり、移動しないでください。移動する場合は完全に消火し、本体が冷えてから行ってください。また本体が燃焼中は揺らさないでください。
- 使用中は火や周囲の状況などに細心の注意を払ってください。お子様やペットがストーブや煙突に触れないよう目を離さず十分ご注意ください。
- 万一の事態に備えて水の入ったバケツを用意してください。
- 薪をストーブに投入する際は必ず断熱効果のある手袋を着用してください。本体、煙突は大変熱くなりますのでやけどのおそれがあります。
- 煙突およびストーブに付いた指紋や油汚れは、燃焼すると焼け跡となって浮かび上がる事があります。

■ 一酸化炭素チェック

△危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- リゲルPro.ストーブプラスをご使用の際は必ず付属の一酸化炭素チェックをご使用ください。
- 一酸化炭素チェックが故障状態になった場合、直ちにストーブのみご使用を中止してください。電池が切れた場合は電池を交換してください。
- 一酸化炭素チェックが「換気警報」を発した際は直ちに換気を行ってください。「危険警報」を発した際は直ちにリゲルPro.の外に出てください。
- 一酸化炭素チェックを使用していても、換気は十分気を付けてください。思わぬ事故の原因となります。
- 設置位置は必ず取扱説明書の指示する位置に従ってください。一酸化炭素チェックが正しく作動しないおそれがあります。また故障のおそれがあります。
- 電池の端子部に金属類を絶対に差し込まないでください。(発熱や発火、感電の原因になります)
- 製品を水に濡らさないでください。また、濡れた手で電池交換をしたり、端子部を触らないでください。(発熱や発火、感電の原因になります)
- 子供の手の届く場所に置かないでください。また、いたずらには十分注意してください。(部品の誤飲やケガの原因になります)
- 分解や改造は絶対にしないでください。(発熱や発火、感電の原因になります)

△警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- 使用温度範囲(-10度~50度)を超える条件での使用、保管はしないでください。電池の液漏れや故障、発熱、発火の原因になります。
- 急激な温湿度変化や気圧変化は避けください。本体内部が結露し、測定精度、本体の誤動作や故障の原因になります。
- 使用できる電池は単四形のアルカリ乾電池(LR03)のみです。アルカリ乾電池以外の電池を使用すると十分な性能を発揮しないばかりか、故障の原因となります。また、アルカリ乾電池でもメーカーの異なるものや、電池残量の違う電池を混ぜて使用しないでください。(故障や液漏れの原因になります)
- 内蔵されているセンサーには使用期限がございます。必ずご使用前に本体に記載されている使用期限をご確認ください。使用期限が過ぎている場合は販売店もしくは弊社アフターサービスまでお問合せください。
- 水のかかる場所、湿気やほこりの多い場所、直射日光にあたる場所で使用しないでください。
- 洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールと一緒に使用または保管しないでください。センサーの感度が低下するおそれがあります。

△注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 付属の一酸化炭素チェックはリゲルPro.ストーブプラス以外の製品で使用しないでください。弊社の製品であっても使用しないでください。
- 落下や衝撃を与えると本体にダメージが蓄積し、通常の使用においても予期せず故障が発生する場合があります。本体にショックを与えないようにご注意ください。
- 使用後は必ず電池を取り出して屋内で保管してください。(電池を取り出さない場合、液漏れの原因になります)
- 電池は子供の手の届かないところに保管してください。
- 長期間保管の際は、シリカゲル等の除湿剤を使用しないでください。センサーの寿命低下が早まります。
- シェルターに吊り下げた際は頭上にご注意ください。
- 本製品は、正確な一酸化炭素の検知を目的としていますが、全ての状況下での完全な保護を保証するものではありません。異常を察知したら換気をする、避難をするといった適切な行動をとるようにしてください。
- 使用開始時は、必ず新しい電池を使用してください。古い電池を使用する場合、長時間ご使用することができません。
- 予備の電池を必ず携行してください。

内容物の概要

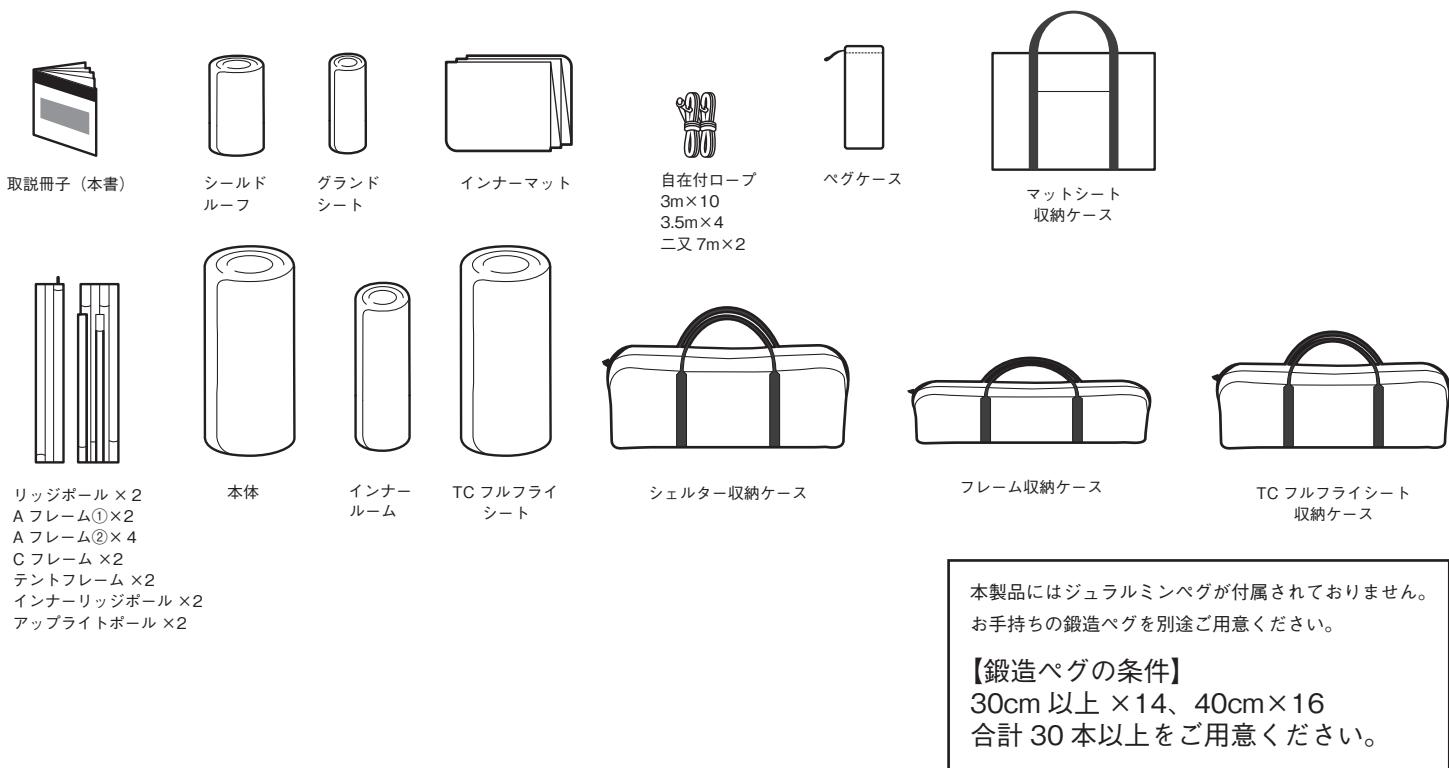
箱	内容物
A	リゲルPro.
B	TCフルフライ
C	ストーブ本体、スパークアレスター、アダプター
D	煙突
E	収納ケース(ストーブ、煙突)、煙突固定ベルト、一酸化炭素チェック
F	ストーブベースステーブルトップ
G	ストーブベースフレーム

※内容物の詳細に関しては各製品のセット内容をご参照ください。

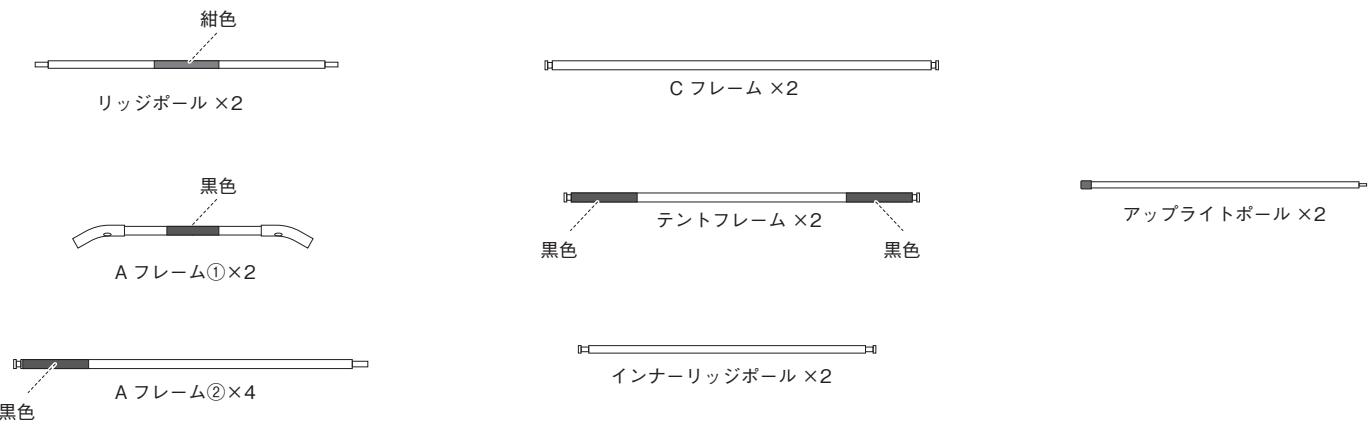
◆ シェルターについて

セット内容

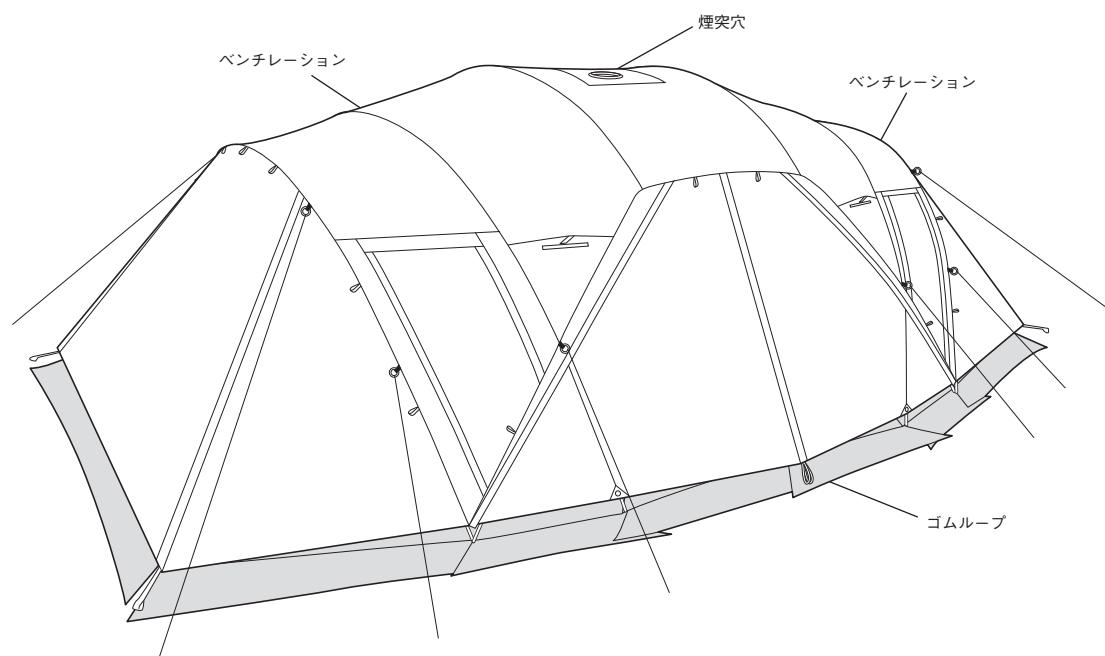
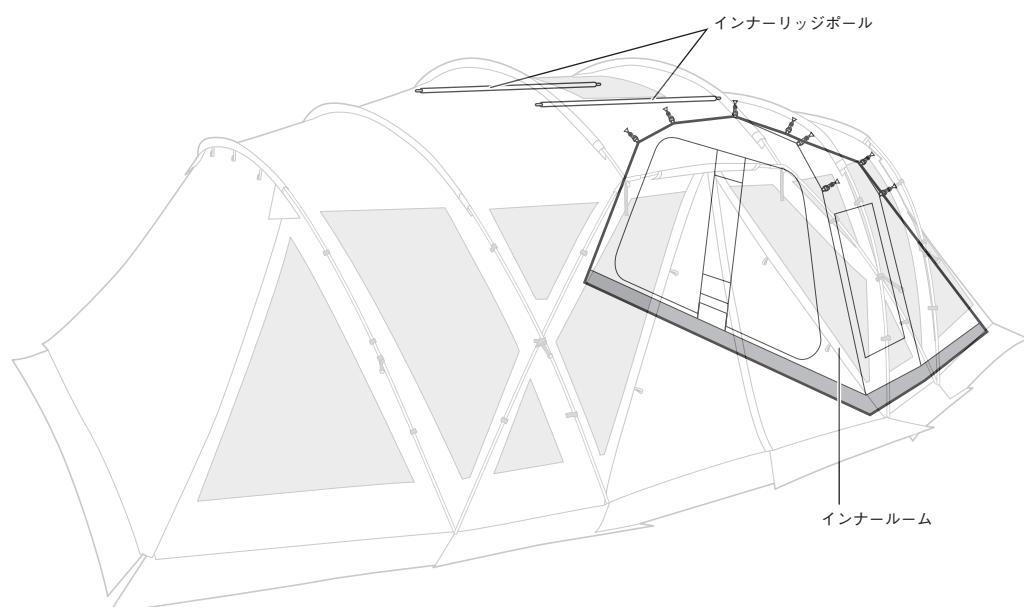
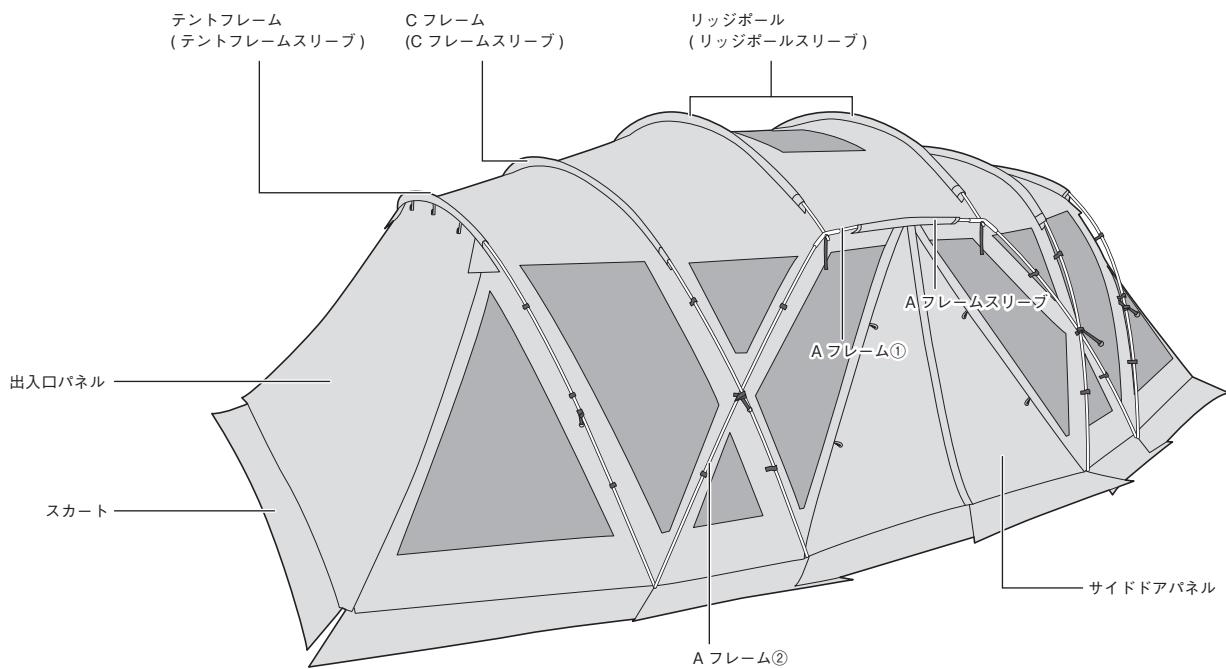
※ご使用の前にセット内容、付属品が全て揃っているかを確認してください。



フレーム構成



各部の名称



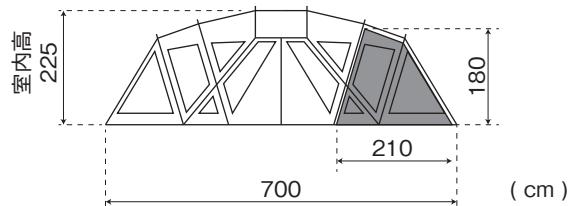
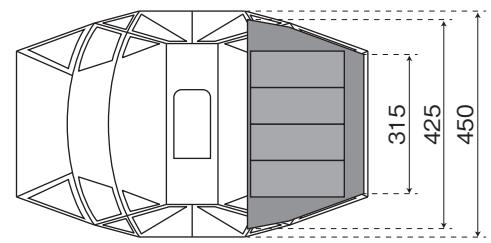
スペック

●セット内容：シェルター本体、TC フルフライシート、リッジポール×2、A フレーム①×2、A フレーム②×4、C フレーム×2、テントフレーム×2、インナーリッジポール×2、アップライトポール×2、シールドルーフ、インナールーム、インナーマット、グランドシート、自在付ロープ(3m×10、3.5m×4、ニ又用 7m×2)、シェルター収納ケース、フレーム収納ケース、TC フルフライシート収納ケース、マットシート収納ケース、ペグケース

●材質:本体／75Dシリコンポリエステルリップストップ・遮光ピグメントPUコーティング耐水圧 1,500mm ミニマム、シールドルーフ／75Dシリコンポリエステルリップストップ・遮光ピグメントPUコーティング耐水圧 1,500mm ミニマム、フレーム／A6061、TC フルフライシート／ポリエステルコットン混紡生地(ポリエステル約 65%、コットン約 35%)、インナールーム／20Dポリエステルミニリップストップ(ウォール)、40Dナイロンリップストップ、PUコーティング耐水圧 1,500mm ミニマム(ボトム)、インナーマット／68Dポリエステルタフタ PU コーティング(表生地)、PVC(裏生地)、発泡ポリエチレン 5mm(中芯)、グランドシート／210Dポリエステルオックス PU コーティング耐水圧 2,000mm

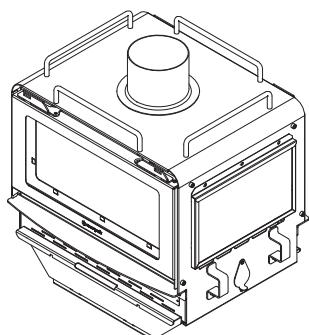
●収納ケースサイズ：シェルター収納ケース／88×34×39(h)cm、フレーム収納ケース／75×19×24(h)cm、マットシート収納ケース／83×68×9(h)cm、TC フルフライシート収納ケース／77×26×30(h)cm

●重量：シェルター本体・フレーム一式／30kg、マットシートセット／5.4kg、TC フルフライシート／13.4kg

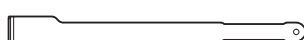


◆ ストーブについて

セット内容 ※ご使用の前にセット内容、付属品が全て揃っているかを確認してください。



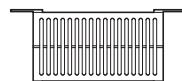
ストーブ本体 1 台



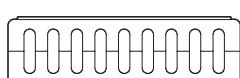
灰かき 1 本



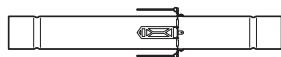
ハンドル 2 本



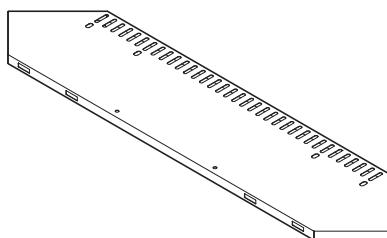
ファイヤープレート 1 個



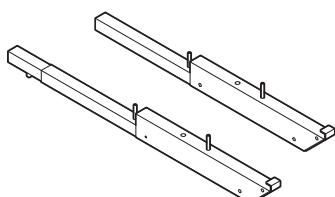
ロストル 2 個



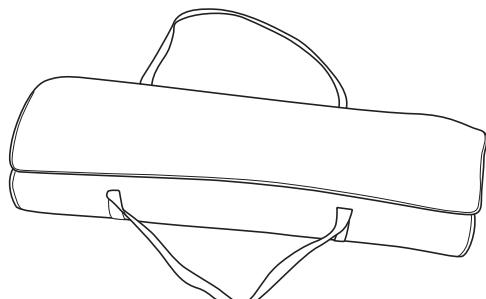
煙突 1 セット



テーブルトップ 4 枚



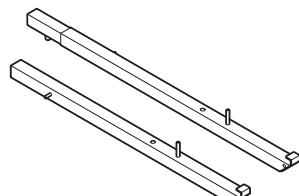
ストーブブリッジ A 2 セット



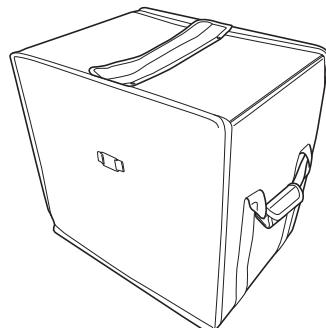
煙突収納ケース 1 個



ストーブベーススタンド



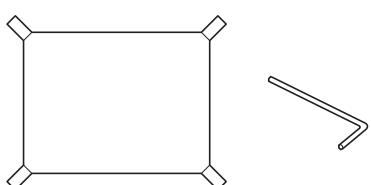
ストーブブリッジ B 2 セット



ストーブ収納ケース 1 個



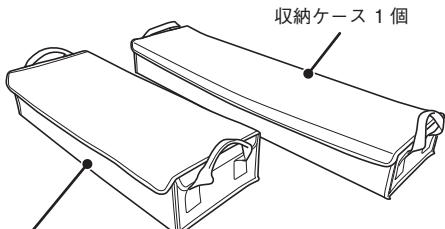
煙突固定ベルト 4 本



遮熱シート 1 枚

六角レンチ 1 本

テーブルトップ
収納ケース 1 個



ストーブベースフレーム 収納ケース
1 個

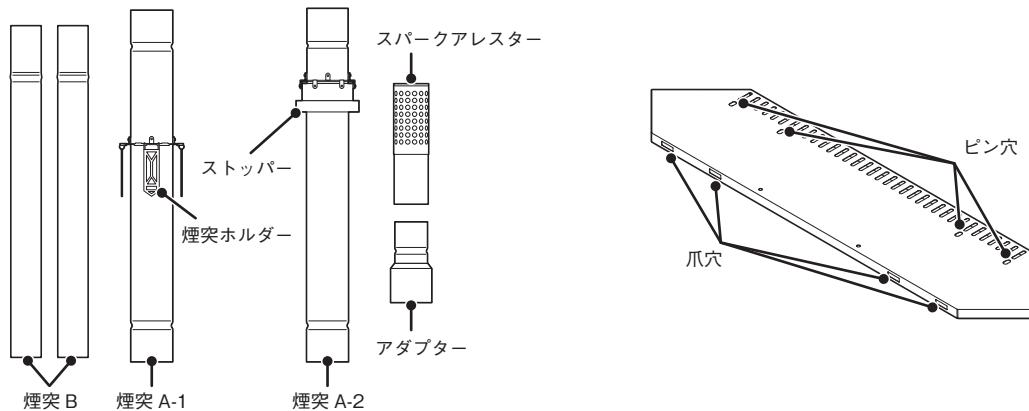
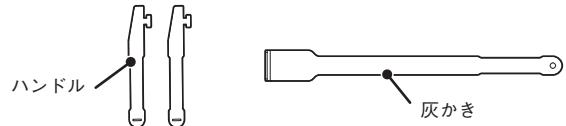
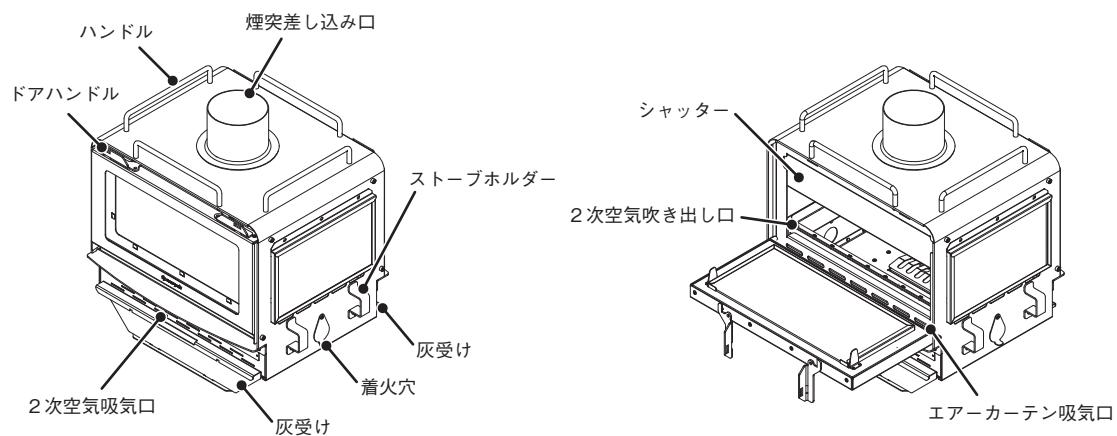
C : ストーブ本体、スパークアレスター、アダプター
D : 煙突

E : 収納ケース（ストーブ、煙突）、煙突固定ベルト、
一酸化炭素チェック

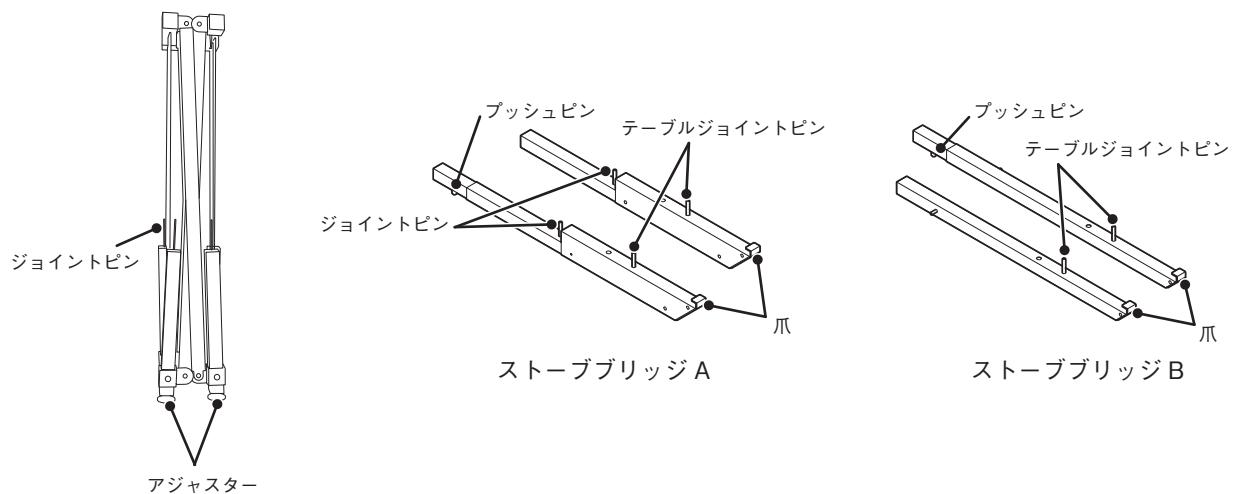
F : ストーブベース テーブルトップ（収納ケース付）

G : ストーブベースフレーム、遮熱シート（収納ケース付）

各部の名称



ストーブベースフレーム



スペック

- セット内容：ストーブ本体、ストーブベーススタンド、ストーブブリッジA×2/B×2、テーブルトップ×4、ハンドル×2、灰かき、煙突セット、煙突固定ベルト×4、遮熱シート、ストーブ収納ケース、ストーブベースフレーム収納ケース、テーブルトップ収納ケース、煙突収納ケース
- 材質：ストーブ本体／ステンレス、ストーブベーススタンド／ステンレス、ストーブブリッジ(A/B)／ステンレス、テーブルトップ／ステンレス、ハンドル／ステンレス、灰かき／ステンレス、窓ガラス／耐熱ガラス、ロープ／セラミックロープ、煙突セット／ステンレス、煙突固定ベルト／ナイロン、綿、ステンレス、遮熱シート／ポリエスチル(シリコーンコーティング)、ストーブ収納ケース／PVC、ポリエチレン、ストーブベースフレーム収納ケース／PVC、ポリエチレン、テーブルトップ収納ケース／PVC、ポリエチレン、煙突収納ケース／PVC、ポリエチレン
- 収納ケースサイズ：ストーブ収納ケース／72×47×64(h)cm、ストーブベースフレーム収納ケース／92×32×17(h)cm、テーブルトップ収納ケース／122×33×13(h)cm、煙突収納ケース／148×50×20(h)cm
- 重量：ストーブ本体(収納ケースを含む)／42kg、ストーブベースフレーム(収納ケースを含む)／20kg、テーブルトップ(収納ケースを含む)／19kg、煙突セット(収納ケースを含む)／10.5kg

◆ 一酸化炭素チェックカーについて

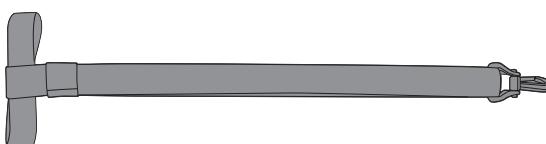
セット内容



本体 ×2



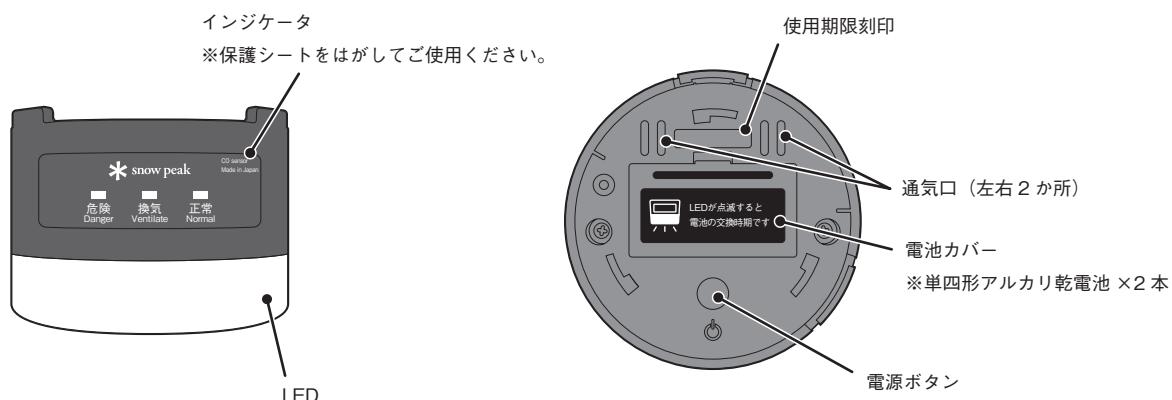
単四形アルカリ乾電池 ×4



ハンギングベルト ×2

E：収納ケース（ストーブ、煙突）、煙突ベルト、
一酸化炭素チェックカー

各部の名称



スペック

- 材質：本体／ABS樹脂、レンズカバー／PMMA樹脂、ハンギングベルト／ナイロン
- サイズ：Φ82×60 (h) mm
- 重量：105g (電池を除く)
- 電池寿命：約 50 時間 ※参考値であり保証値ではありません
- 使用電源：単四形アルカリ乾電池 2 本のみ ※充電池はご使用できません
- 使用温度条件：-10°C～50°C ※使用温度範囲内であっても低温・高温環境下では電池寿命が低下します
- 使用湿度条件：10%～95%RH (結露無し)
- 検知対象ガス：一酸化炭素
- 検知方法：電気化学式
- 測定間隔：電源 ON 後 1 分間は測定なし (測定準備中) その後は 20 秒間隔

設営前チェックリスト

設営前には以下のチェックリストを使用し、不足品の有無、各製品の不具合、設置前の環境を必ず確認してください。

<input checked="" type="checkbox"/>	リゲルPro.ストーブプラスに含まれる全ての付属品が揃っているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	製品の設営に必要なペグの必要数は揃っているか。鍛造性ペグ:30cm以上×14、40cm以上×16、その他ペグ×4(遮熱シート固定用ペグ)
<input checked="" type="checkbox"/>	リゲルPro.ストーブプラスに含まれる全ての付属品に破損や消耗がないか。(製品製造時に発生する表面のキズ等は含まない)
<input checked="" type="checkbox"/>	一酸化炭素チェッカーに電池が入っているか、予備の電池があるか。一酸化炭素チェッカーの電源が入るか。(P.32)
<input checked="" type="checkbox"/>	シェルターおよびストーブの設営予定場所は地盤のしっかりとした平坦な地面であるか。
<input checked="" type="checkbox"/>	冬季および積雪環境での使用時、シェルターの設営予定場所の圧雪を行ったか。ストーブ設置場所は除雪を行ったか。

◆ 設営方法

初めてお使いになる前に

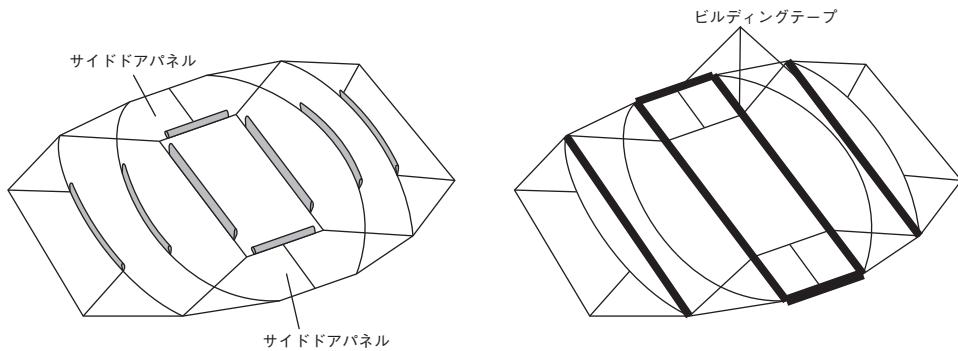
●品質には万全を期しておりますが、お使いになる前に必ず試し張りを行い、付属品や設営道具を確認してください。万一不具合や付属品の欠品があった場合は、お問い合わせになった販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

シェルター設営の手順 ※より安全に設営するために必ず2人以上で設営してください。

設営・撤収は以下の説明に従い、繰り返し練習し、実際のキャンプに備えてください。
また、付属品が全て揃っているか、前もってご確認ください。無理な設営・撤収は本体やフレームの破損や事故の原因になります。
本書をよくお読みになりご使用ください。

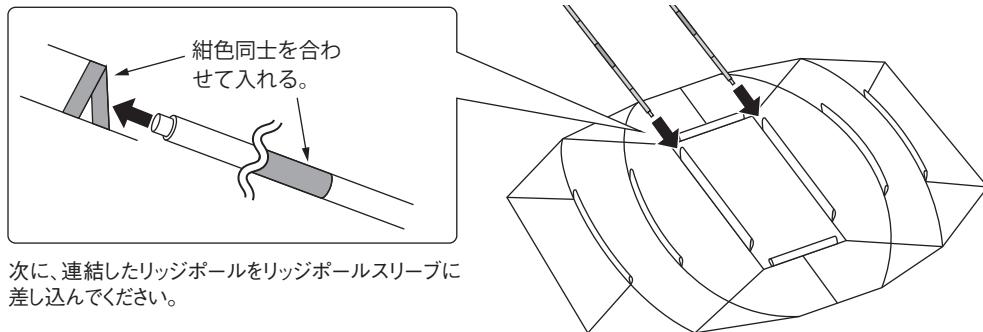
① 本体を平らな場所に広げます。

※ビルディングテープのバックルが6本とも接続されている事を確かめてください。もし外れている場合は設営前に必ず接続してください。



② リッジポール×2を伸ばし、接続部をしっかりと連結します。

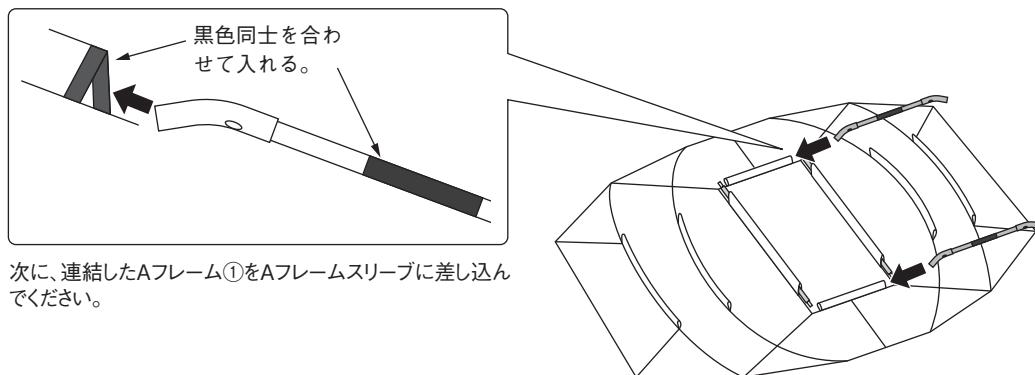
※フレームの接続部に隙間ができるようしっかりと差し込んでください。



次に、連結したリッジポールをリッジポールスリーブに差し込んでください。

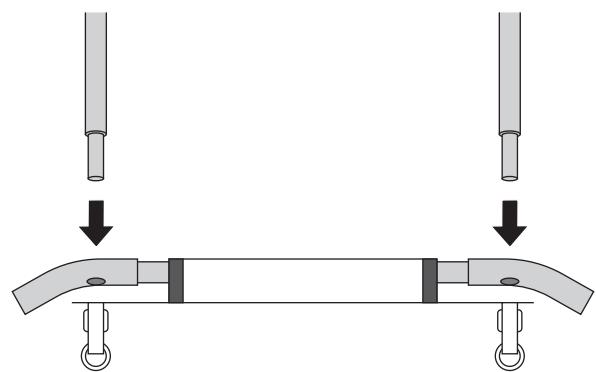
③ Aフレーム①×2を伸ばし、接続部をしっかりと連結します。

※フレームの接続部に隙間ができるようしっかりと差し込んでください。



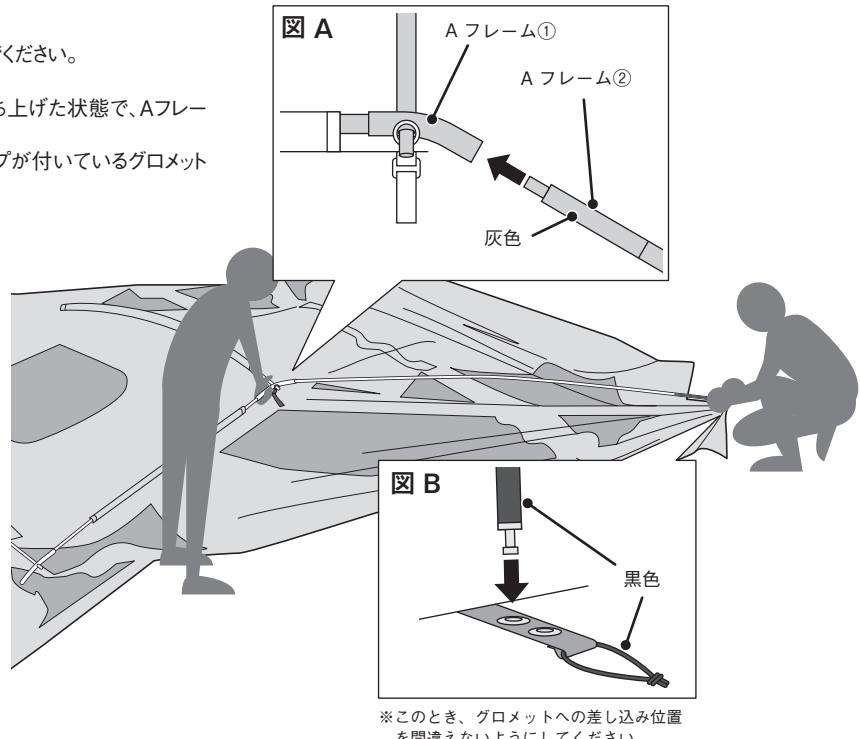
次に、連結したAフレーム①をAフレームスリーブに差し込んでください。

- ④ リッジポールの先端をAフレームの穴に差し込んでください。
反対側も同様の作業を行います。

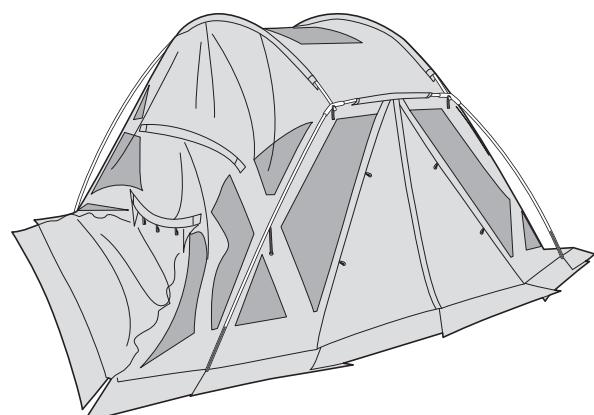


- ⑤ Aフレーム②×2を伸ばし、接続部をしっかりと連結します。
※フレームの接続部に隙間がないようしっかりと差し込んでください。

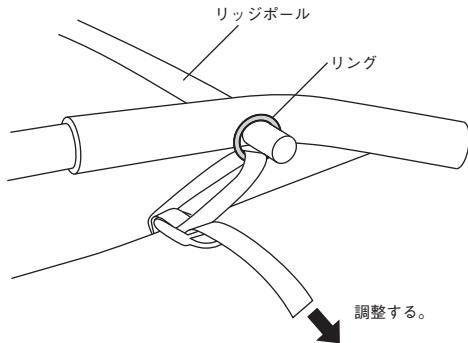
右図のようにリッジポールとAフレーム①の交差部を1人が持ち上げた状態で、Aフレーム①の先端にAフレーム②(灰色側)を差し込みます。(図A)
次にもう1人がAフレーム②の端部(黒い節側)を黒色のループが付いているグロメット(本体側)に差し込みます。(図B)



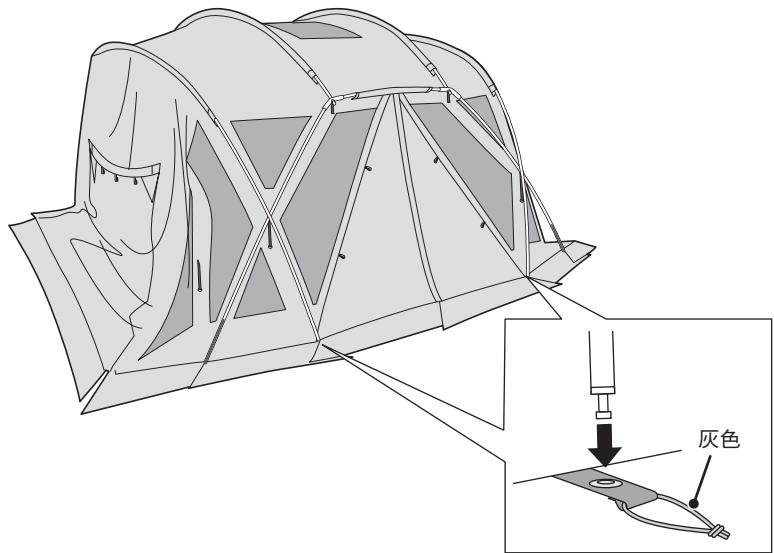
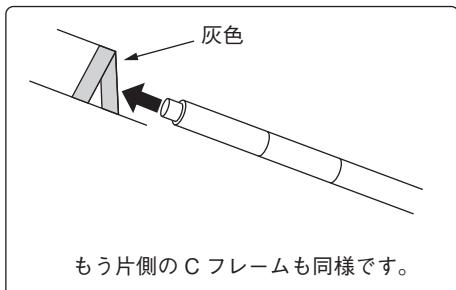
- ⑥ 残りの3箇所も同様に作業を行い、右図のように自立した状態にします。
※全ての箇所での作業は2人以上で行ってください。



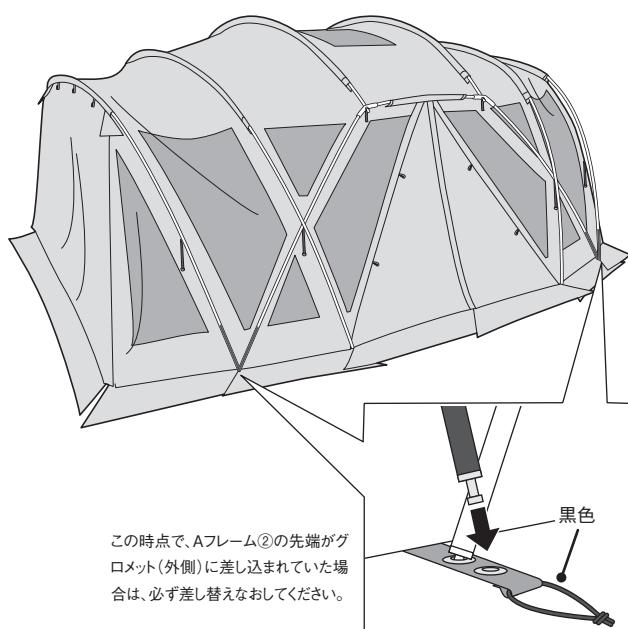
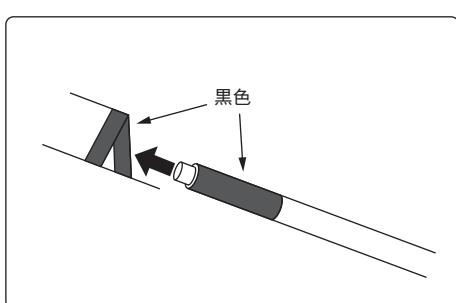
- ⑦ フレームの連結部付近にあるリングを右図のようにリッジポールの先端に掛けて、ベルトを引き、フライシートにテンションがかかるように長さを調整します。



- ⑧ Cフレーム×2を伸ばし、接続部をしっかりと連結します。
※フレームの接続部に隙間がないようしっかりと差し込んでください。



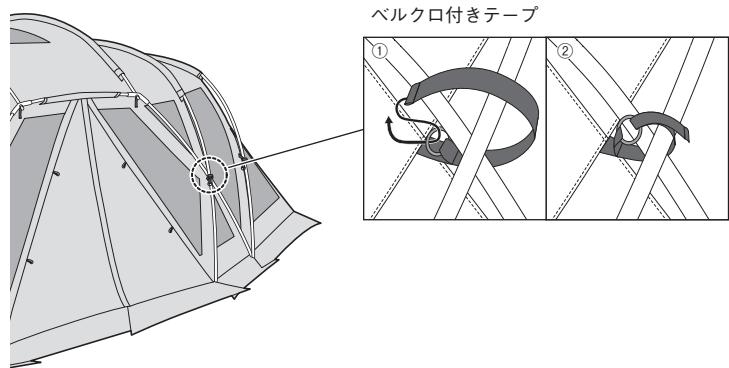
- ⑨ テントフレーム×2を伸ばし、接続部をしっかりと連結します。
※フレームの接続部に隙間がないようしっかりと差し込んでください。



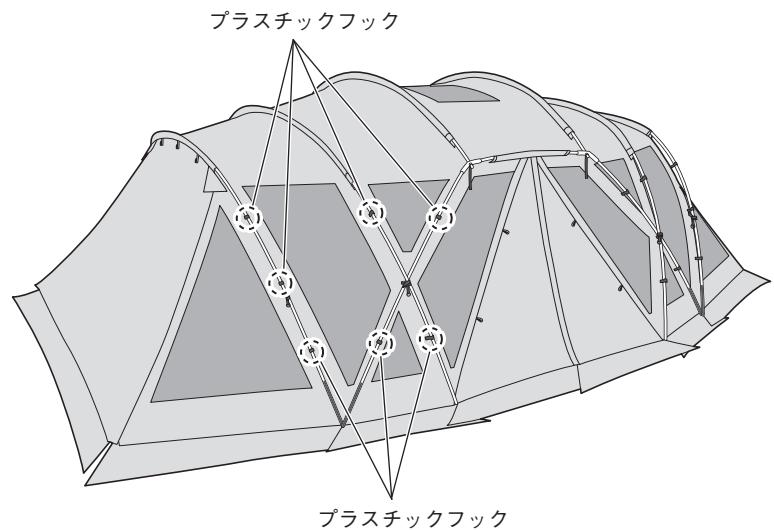
テントフレームスリーブに接続したテントフレームを通します。
テントフレームの先端を黒色のループが付いているグロメット(外側)に差し込みます。
もう片側のテントフレームも同様です。
※黒色のループが付いているグロメットは、テントフレームスリーブの縫製ラインに沿っていくと見つかります。

この時点で、Aフレーム②の先端がグロメット(外側)に差し込まれていた場合は、必ず差し替えなおしてください。

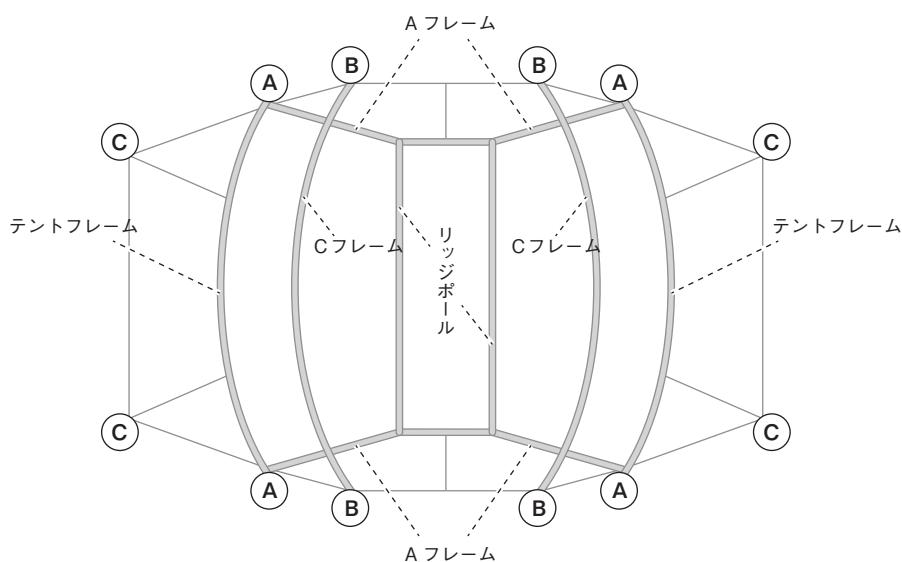
- ⑩ AフレームとCフレームの交点を本体についているベルクロ付きテープで巻き付け、ベルクロで固定してください。
このとき、ベルクロ付きテープはねじらないように巻き付けてください。



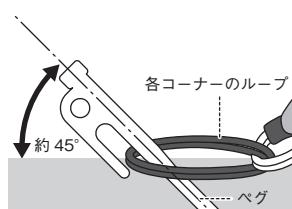
- ⑪ 上から順に各フレームにプラスチックフックを掛けしてください。
プラスチックフックは確実にすべての個所を固定してください(28か所)。
プラスチックフックの掛け忘れにご注意ください。



- ⑫ A→B→Cの順番で各コーナーのループをペグで固定してください。

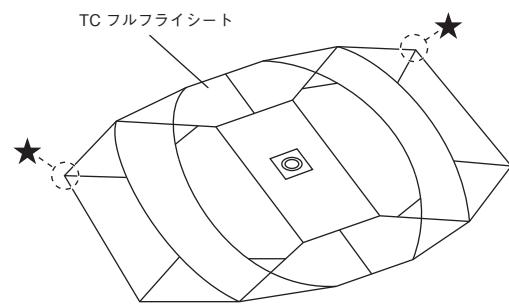


※大型シェルターのためご使用する
ペグは、30cm 以上の鍛造性のペ
グを推奨します。

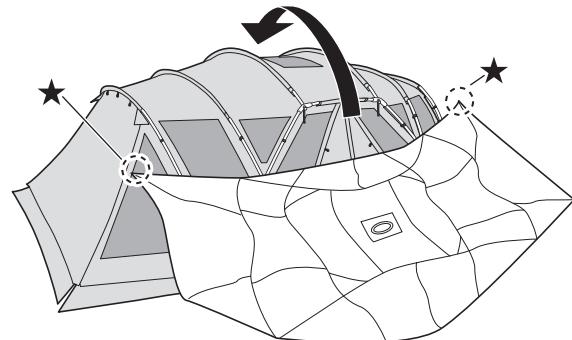


[ループへのペグダウン]
ペグを打ち込む角度は地面に対し
約 45° になるようにペグダウン
してください。

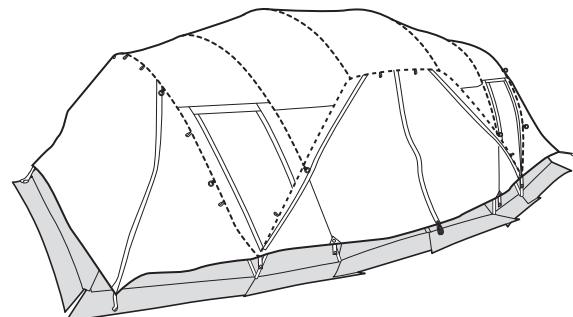
⑬ 平らな場所でTCフルフライシートを広げて★印の箇所を持ち上げます。



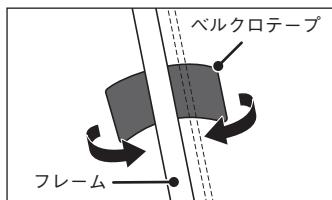
⑭ 右図のようにリゲル本体にTCフルフライシートを覆いかぶせます。



⑮ 縫製の線とフレームを合わせます。(右図点線)

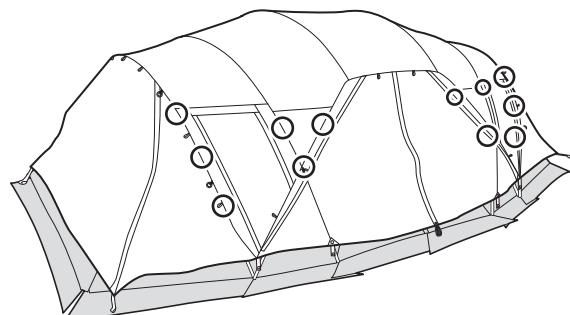


⑯ TCフルフライシートの内側にあるベルクロテープをフレームに巻き付け
て固定してください。(24箇所)

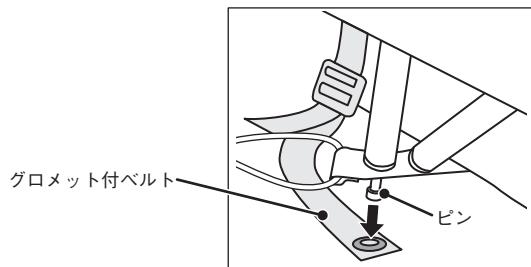


TC フルフライシート内側

フレーム交点は2本のフレームをまとめて巻き付けます。
反対側も同様です。

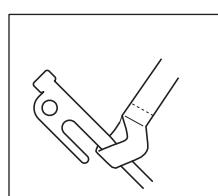


17 TCフルフライシート袖部のグロメット付ベルトのグロメットをフレーム先端のピンに取り付けます。



フレームが2本ある場合は外側のフレームのピンを利用して、TCフルフライシートと固定してください

18

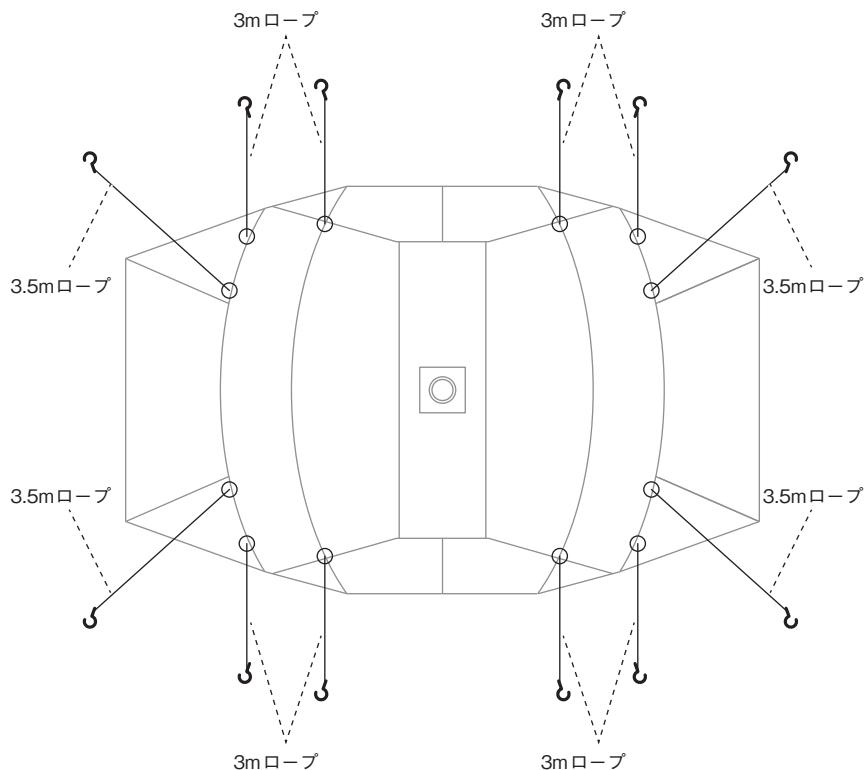


ベグダウンテープをベグで固定します。
※このベグはフライシート本体を固定しているベグと共用しないでください。

※大型シェルターのためベグダウンテープ固定にご使用するベグは、40cm以上の鍛造ベグを推奨します。

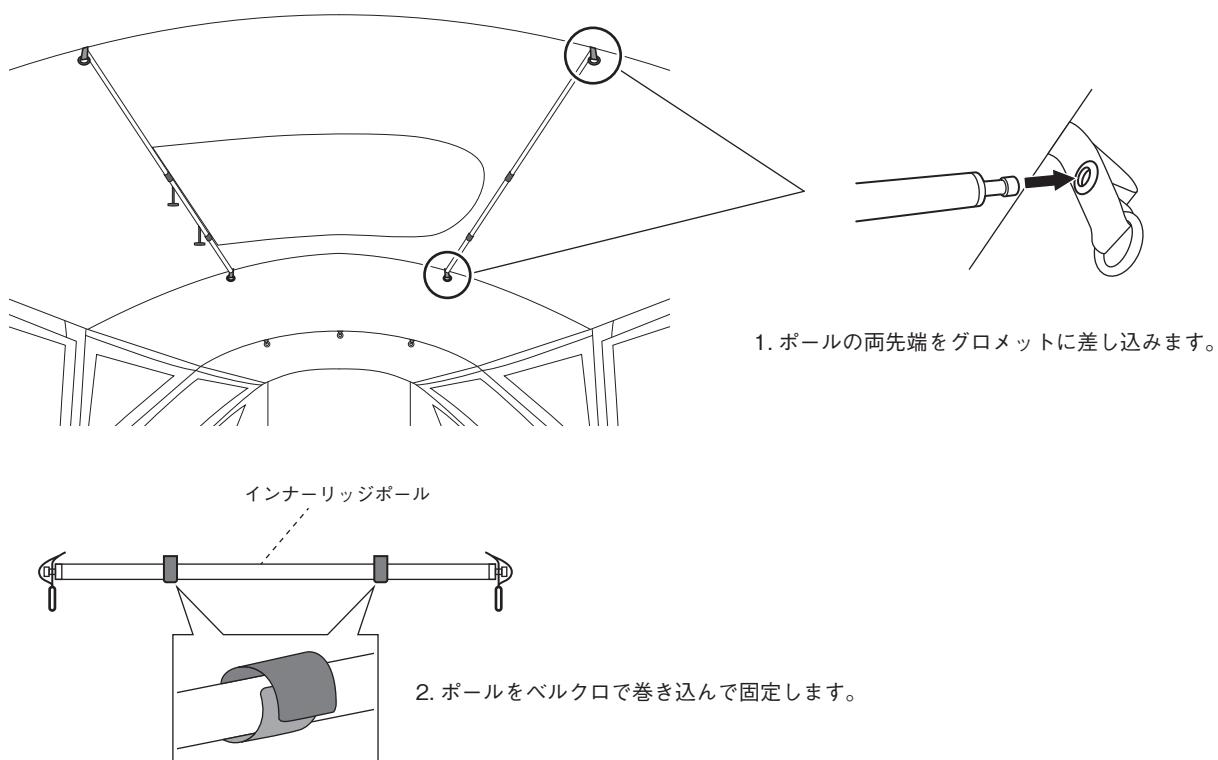
20 下図のように自在付ロープの取り付けとベグの打ち込みを行ってください。

※大型シェルターのため自在付ロープの固定にご使用するベグは、40cm以上の鍛造ベグを推奨します。



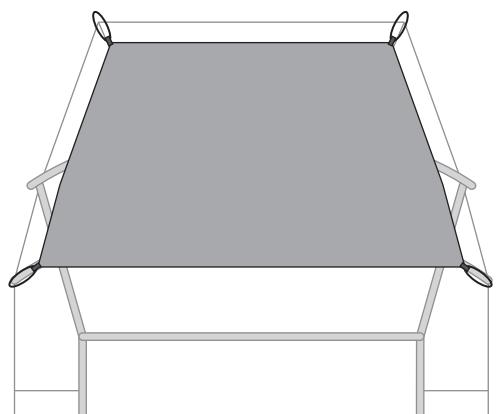
ルーフコーナーにある
Oリングにはロープの
返し部分を通してください。

② 自在付ロープの固定が完了したら、シェルターの内部に入り、天井にインナーリッジポール×2を取り付けます。

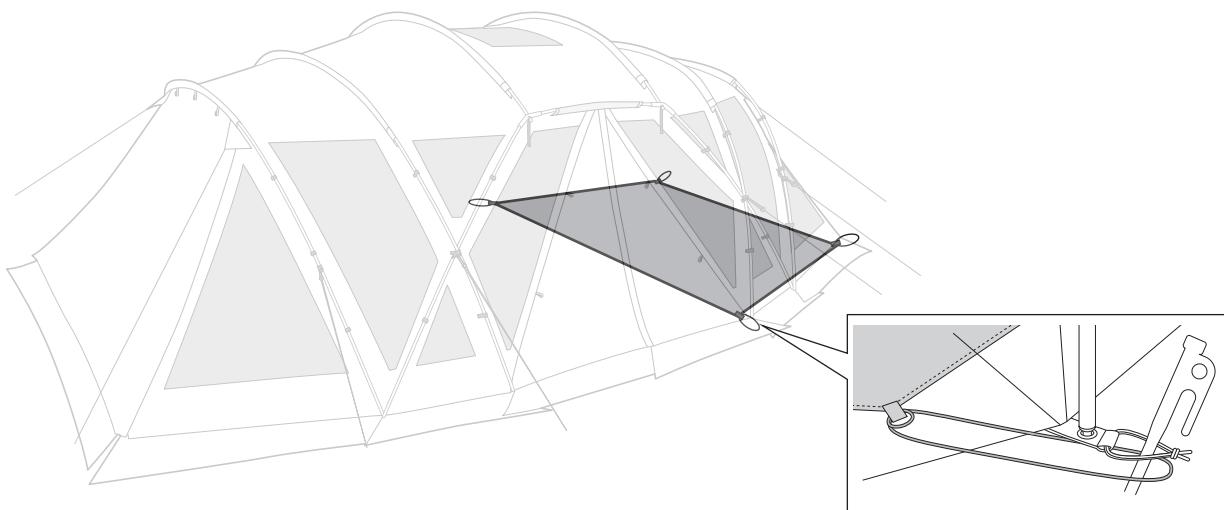


グランドシートの取り付け方

- ① グランドシートをPUコーティング(てかりがある面)が上になるようにシェルターの中に敷いてください。
シェルター本体とグランドシートの形状が合うように本製品の向きを確認してください。

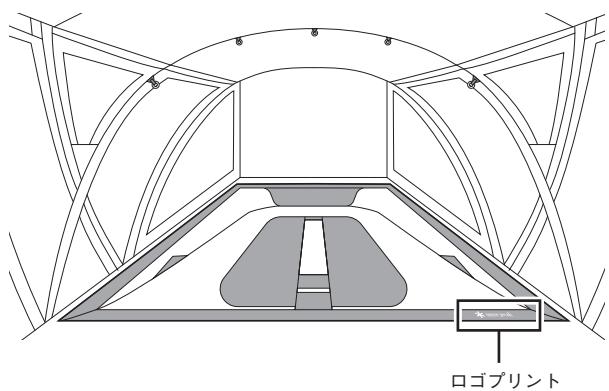


- ② グランドシートの各コーナーにあるゴムループを伸ばし、対応するペグに引っ掛けください。(4ヶ所)

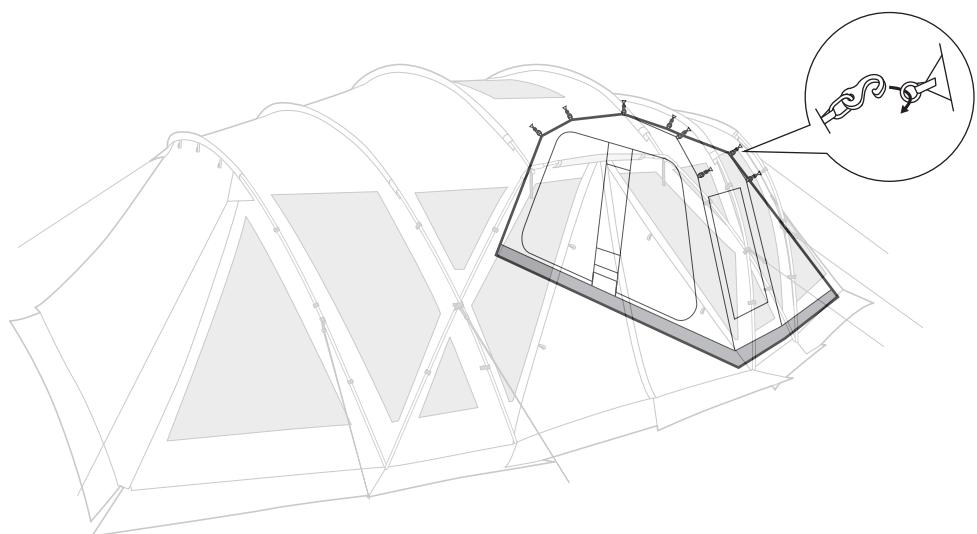


インナールームの取り付け方

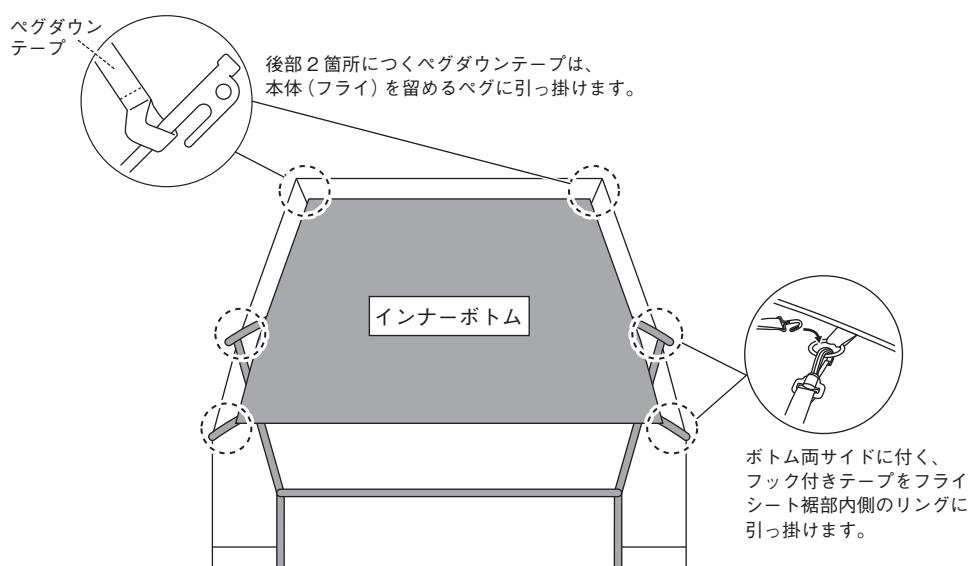
- ① インナールームの前後を確認して、室内に広げます。
インナールームはボトムにロゴプリントが入っている方が室内側です。
※フライシート本体には前後の設定はありません。



- ② インナールームのプラスチックフックをフライシート内側のプラスチックリングに引っ掛けます。(10か所)



- ③ ボトムの各コーナーを下図にしたがって取り付けてください。



ここまででシェルターの設営は完了です。これから先はストーブの組立に移ります。

ストーブ組立の手順

設営・撤収は以下の説明に従い、繰り返し練習し、実際のキャンプに備えてください。

本書をよくお読みになりご使用ください。

また、付属品が全て揃っているか、前もってご確認ください。無理な設営・組立・撤収は製品の破損や事故の原因になります。

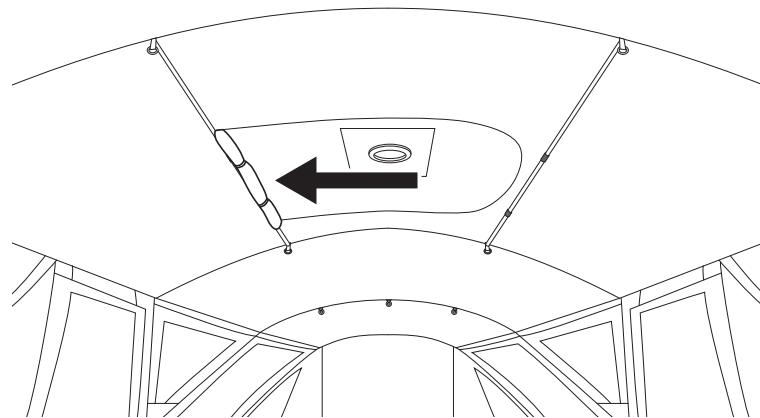
危険

- リゲルストーブは、地盤がしっかりとした平たんな場所で設置してください。傾いた場所への設置は思わぬ事故の原因となります。
- 冬季間でのご使用は除雪を行い、「ストーブの脚部が地面にしっかりと接地していること」と「煙突が取扱説明書通り組付けができていること」を確認してください。組付けができない場合は、リゲルPro.本体ごと設置場所を変えてください。

警告

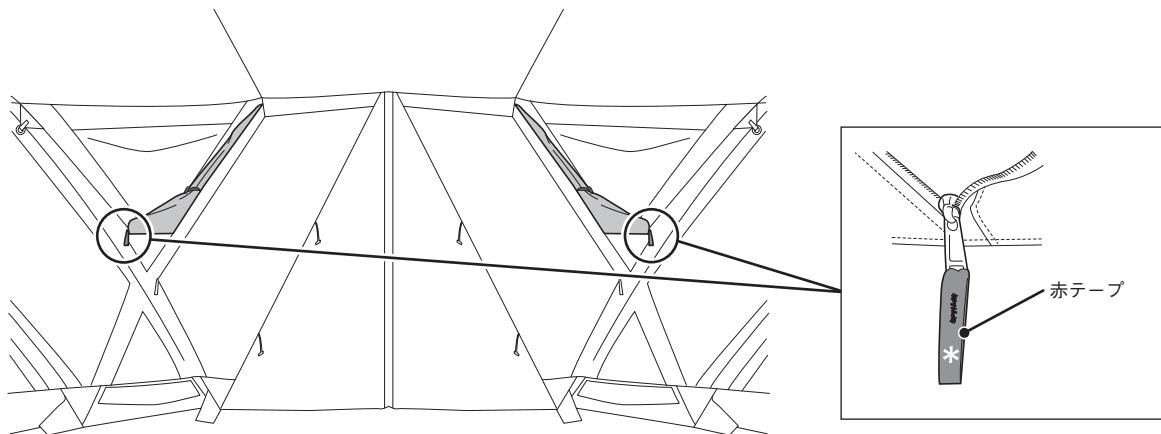
- リゲルストーブの設置は必ず2人以上で作業してください。
- リゲルストーブを設置する際には必ず作業用の手袋を着用してください。

- ① シェルター本体天面の窓を開けて巻き上げます。

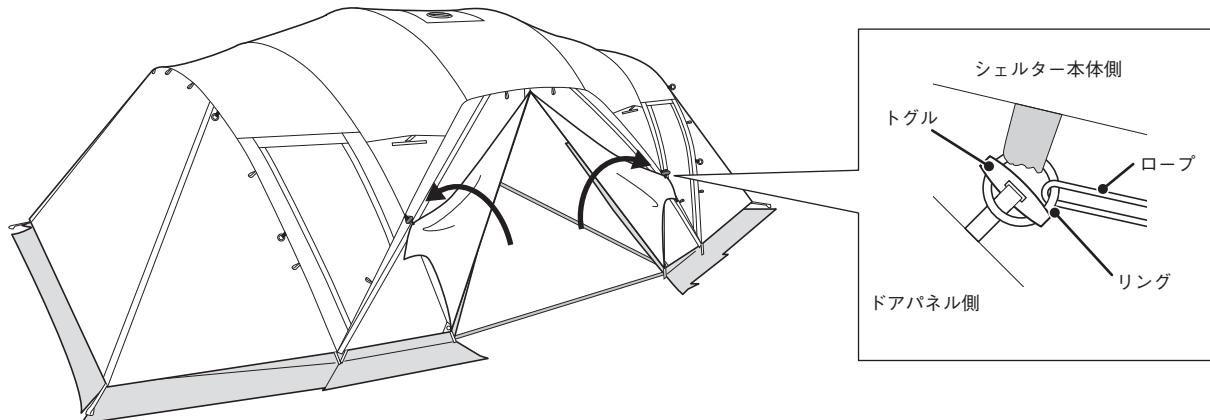


- ② ファスナーに赤テープが付いている窓(×4)を開けます。この窓が換気用窓となります。

※TCフルフライシートのベンチレーションが開いていることを確認してください。
閉じている場合は、ベンチレーションを開いてください。



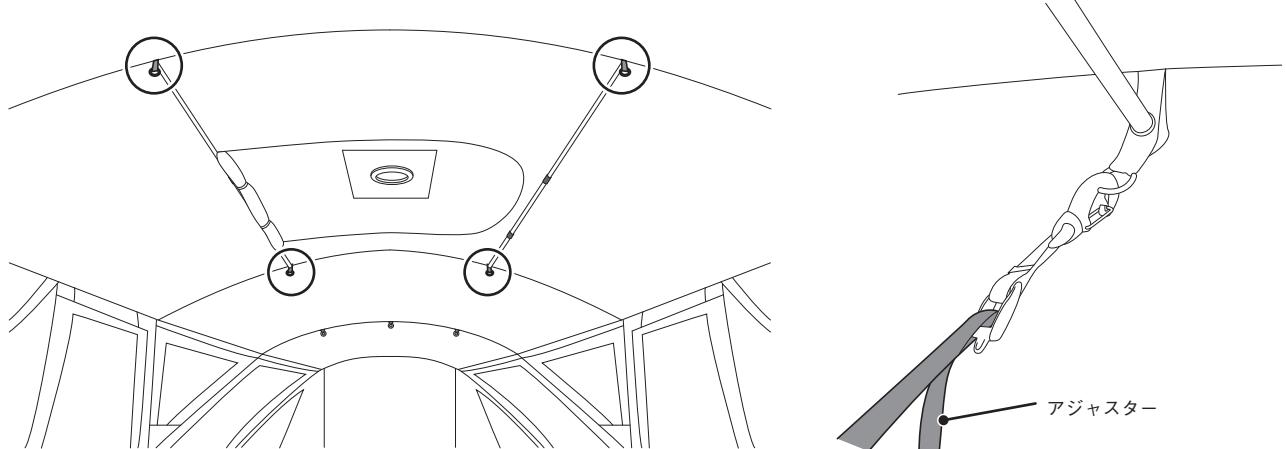
危険 換気用窓を閉めた状態で薪ストーブを使用すると万が一、シェルター内に一酸化炭素などの有毒なガスが発生した場合に重大な事故の原因となります。



煙突やストーブを移動させる為にシェルターおよびTCフルフライシートのサイドドアパネルを開けます。

TCフルフライシートのサイドドアについているトグルを自在付きロープを取り付けたリングに引っ掛けることでサイドドアの開放状態を維持することができます。

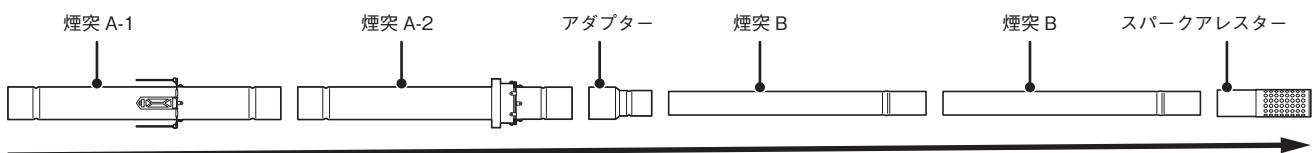
③ 図の位置のOリングに煙突固定ベルトの樹脂フックを取り付けます。



煙突固定ベルトのアジャスターの向きが下向きになるように取り付けてください。(上図)

④ 煙突を取り付けます。

図の向きでひとつずつ煙突A-1から順に差込み、最後にスパークアレスターを差し込みます。

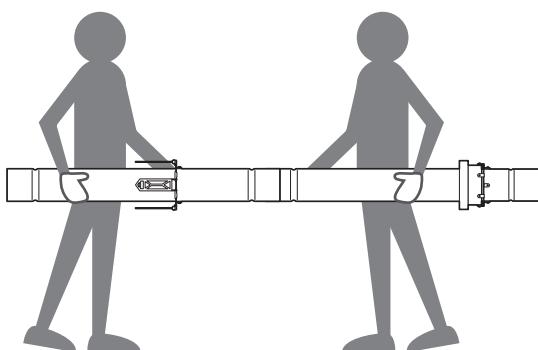


警告

- 煙突の端部は製品の加工上、鋭利になっています。触れないようご注意ください。
- 周囲の人や物にぶつけないようにしてください。ケガのおそれがあります。

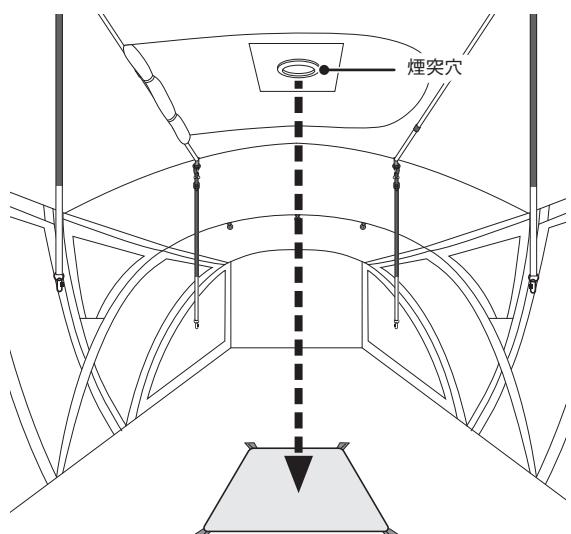
注意

- 煙突は最後まで差し込まれていることを確認してください。
- 差し込む際に強引にねじ込んだり過剰な負荷をかけないでください。煙突が変形します。



煙突は二人で持ち、差し込む角度を調節しながら差し込むと組立しやすくなります。

⑤ 煙突穴の真下に遮熱シートを敷きます。



- ⑥ 1) 煙突をスパークアレスター側からシェルターへ入れ、煙突穴へ差込みます。(図A)
 2) 連結した煙突を地面と垂直にして遮熱シートに置きます。(図B)

図 A

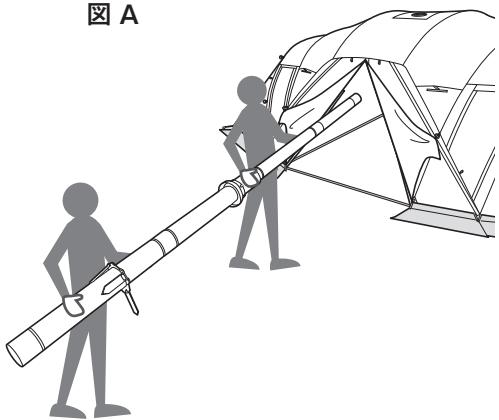
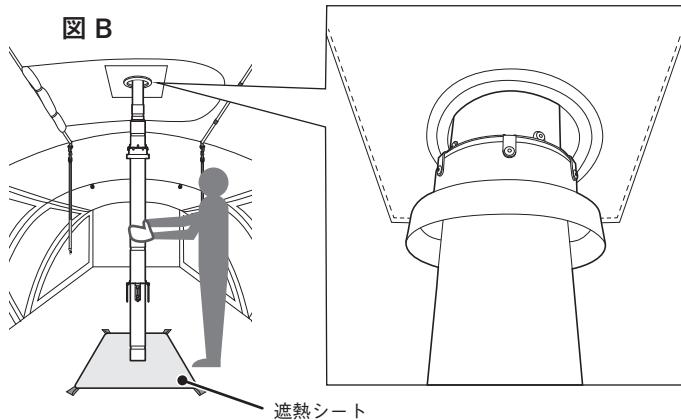


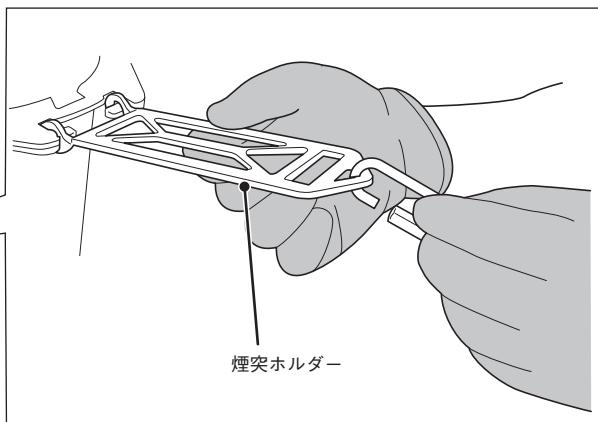
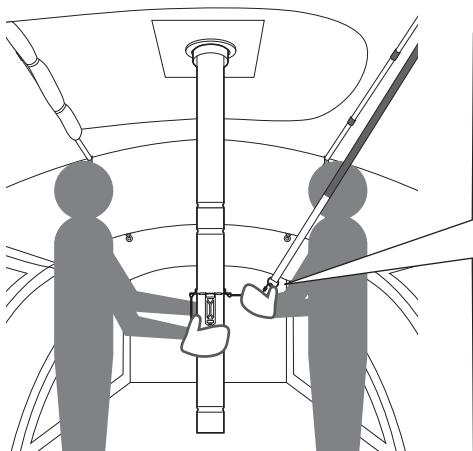
図 B



注意 シェルターへの組付け時は煙突に負荷がかからぬように2人で持ち運びください。

注意 煙突が倒れないように必ず1人が煙突を支えてください。

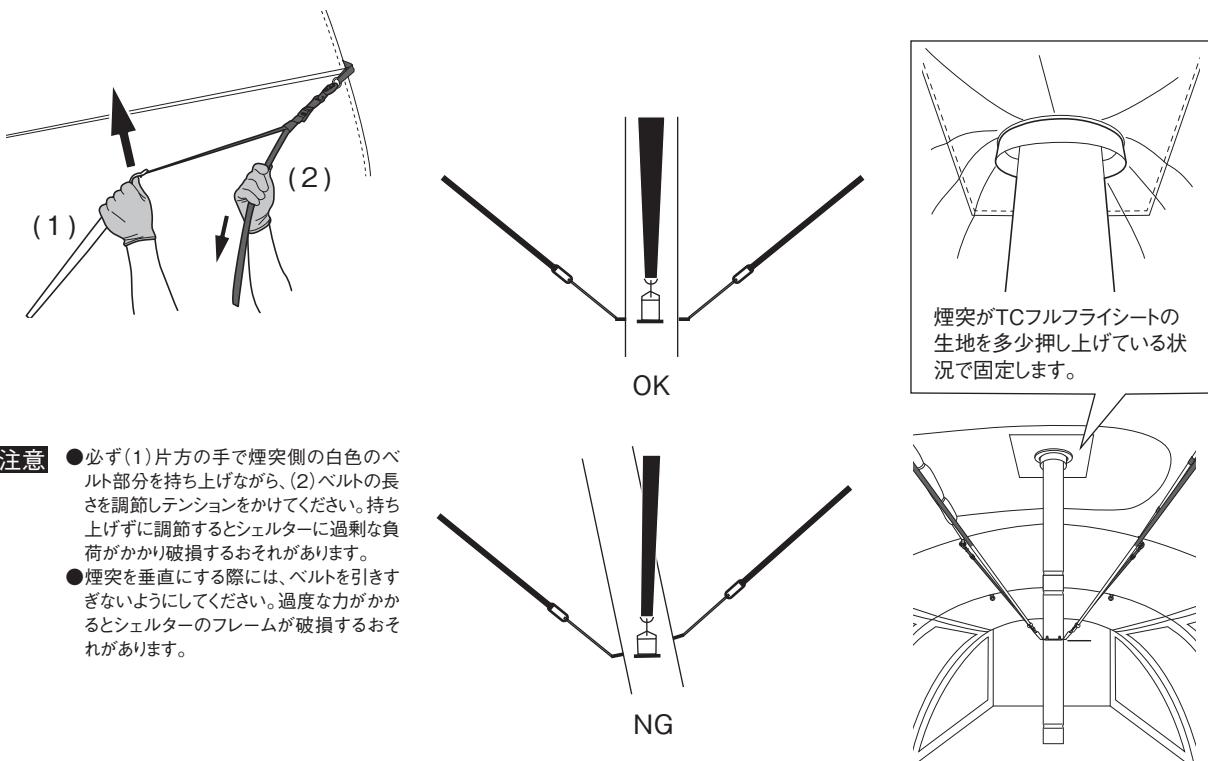
- ⑦ 一人が煙突最下部(煙突A-1)を持ち、もう一人は煙突ホルダーの先端の穴に煙突固定ベルトの金属カラビナを取り付けます。(×4箇所)



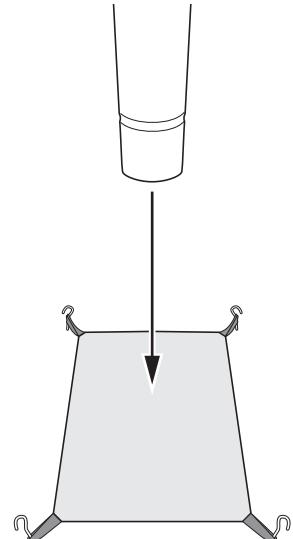
警告 金属カラビナの取り付け時、煙突ホルダーの先端の穴を間違えないでください。煙突をまっすぐに取り付けることができなくなり、製品破損の要因となります。

注意 煙突A-1を持ち上げる人は、煙突底面を持たないでください。煙突の先端は鋭利なのでがをするおそれがあります。

- ⑧ 1人は煙突端部が地面から80cmぐらいになるまで持ち上げ(※1)、もう一人は煙突固定用ベルトに多少テンションがかかる程度まで、ベルトの長さを調整します。
調整後、煙突を支える1人が手を離した際に、煙突が地面と垂直になっていることを確認してください。垂直でない場合は、再度煙突を持ち上げながら、ベルトの長さを調整してください。
(※1)TCフルフライシートの天井部が多少張るような状態になります。

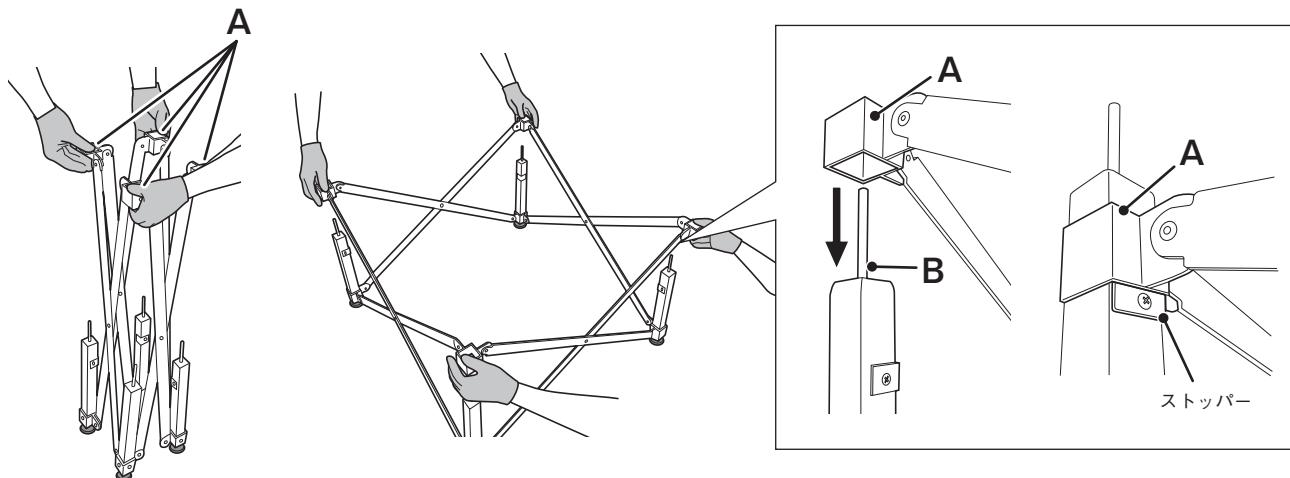


- ⑨ 遮熱シートの中心が煙突の真下になっているか改めて確認し、ペグで固定します。
このとき、ストーブの向きを決めて遮熱シートの位置を固定します。



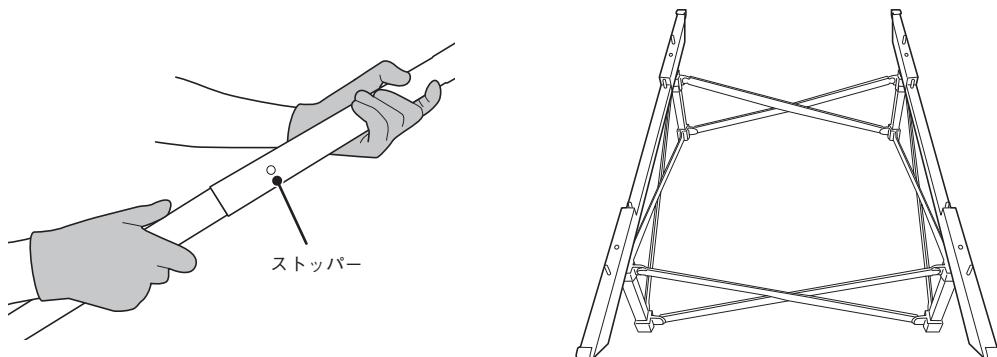
遮熱シートの長辺がストーブの開閉口(窓ガラス(大))がある面になります。

⑩ ストーブベーススタンドを図の位置(A)を持ち、広げます。AをBに通しストッパーに当たるまで下げる、設置します。



⑪ ストーブブリッジAの接続部をしっかりと連結します。

※接続部がプッシュピンで固定されていることを確認してください。
次に遮熱シートの長辺側にストーブブリッジA(×2)を配置します。
手順⑩で広げたストーブベーススタンドのジョイントピンに差し込んでください。



注意 連結の際に指を挟むおそれがあります。
接合部付近を持たないでください。

⑫ ストーブ本体の中に、ファイヤープレートを取り付けます。

- 1) ファイヤープレートはまずストーブ内側上面にある溝にイラストと同じ向きでどちらか片方の爪2箇所を設置してください。(図1)
- 2) 次に反対側の爪も図2のように差し込み図3のように設置してください。

注意 ファイヤープレートはテーブルに組付ける前に取り付けてください。作業が困難になります。ファイヤープレートの付け忘れには十分ご注意ください。燃えた木片が煙突内部に運ばれ、思わぬ事故の原因になります。

図 1

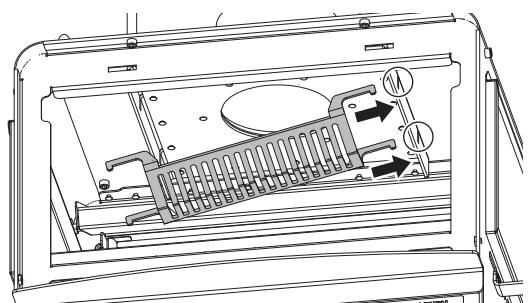


図 3

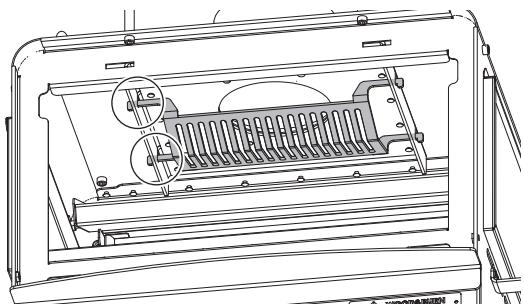
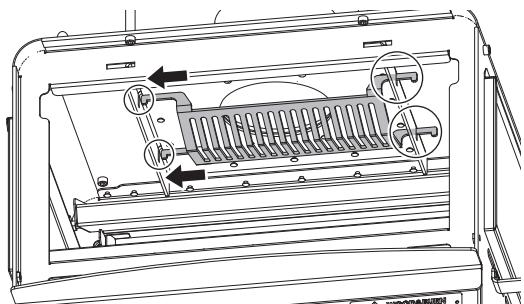


図 2



⑯ ストーブブリッジBをストーブホルダーに差し込みます。(図1)

1) 「ストーブブリッジの爪が上向き」かつ「突起がストーブの外側に向いていること」を確認してください。

2) ストーブブリッジB同士をプッシュピンで接続してください。(図2)

※接続部がプッシュピンで固定されていることを確認してください。もう片方のストーブブリッジBも同様です。

図 1

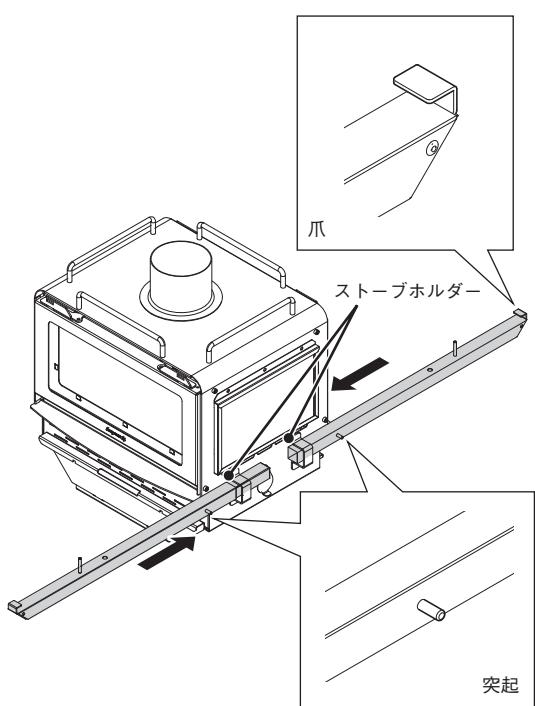
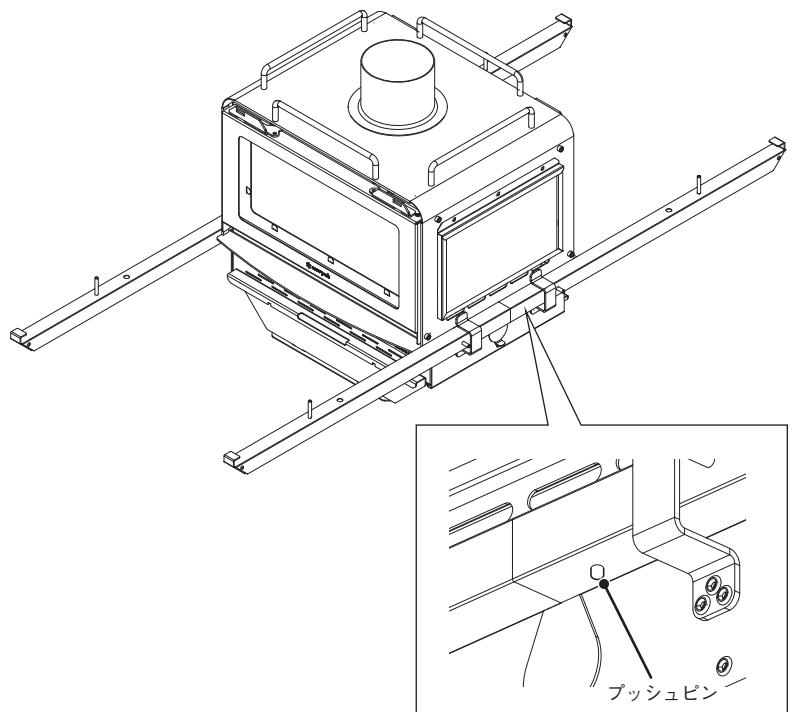


図 2



⑯ 1) 2人でストーブブリッジBの両端をつかみ、向き合いながら持ち上げます。(図3)

2) 上から見てブリッジA/Bが格子状になる様に移動します。(図4)

このとき煙突とストーブがぶつからない様にご注意ください。煙突とストーブが干渉する場合(図5)、TCフルフライのロープを緩め、再度⑧の調整手順で煙突を上に持ち上げてください。

3) ストーブブリッジAのジョイントピンにブリッジBの穴を差し込みます。(図6)

穴に差し込みにくい場合はストーブベーススタンドが上から見て正方形ではなく、歪んでいる可能性があります。脚の位置を調整し、再度手順3)を行ってください。

図 3

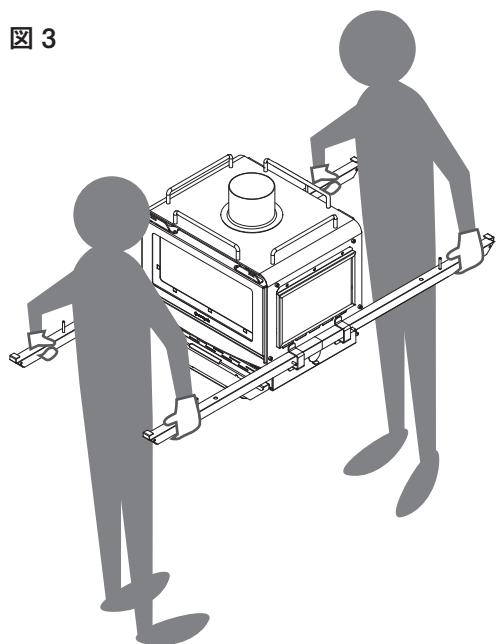


図 4

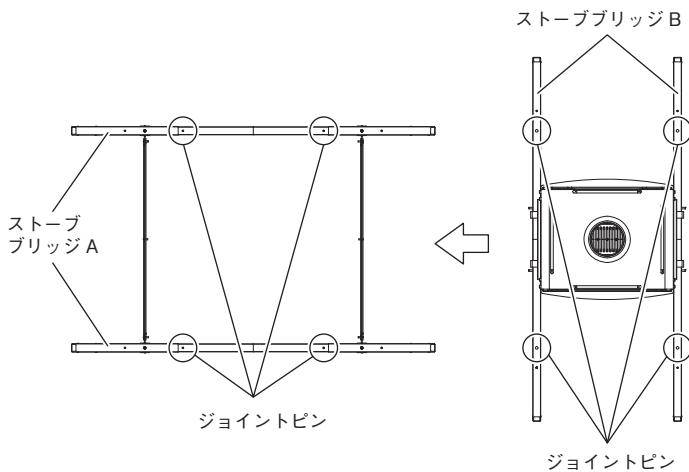


図 5

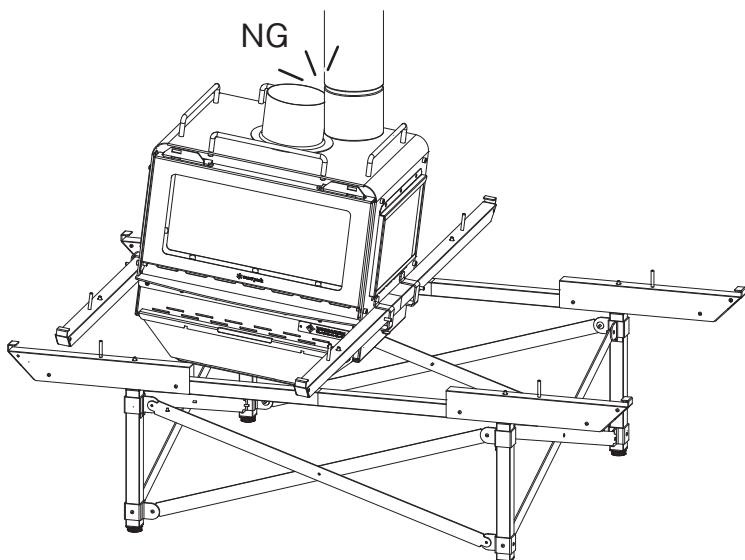
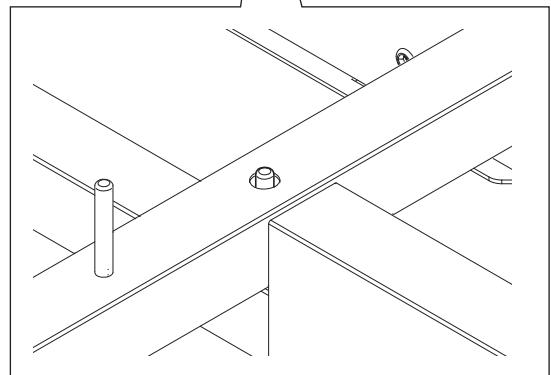
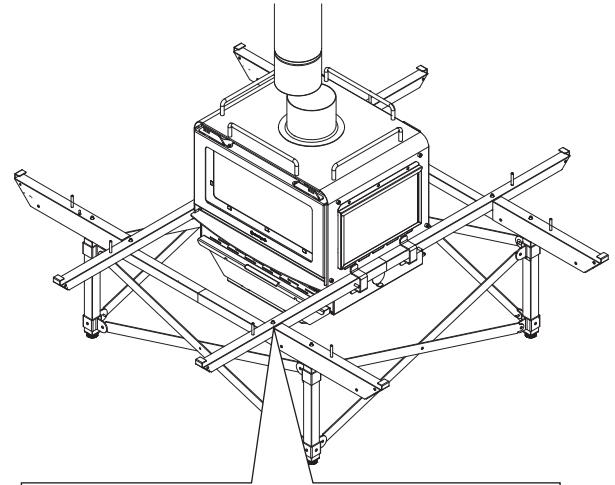
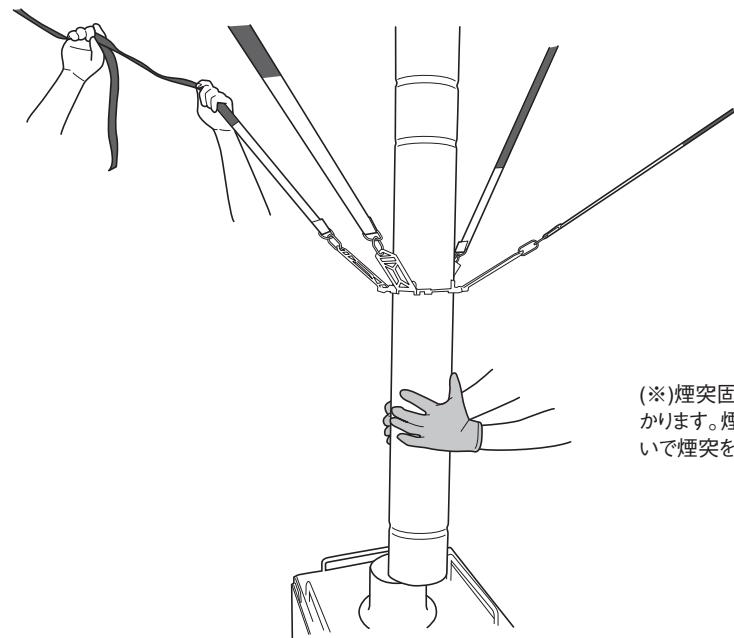


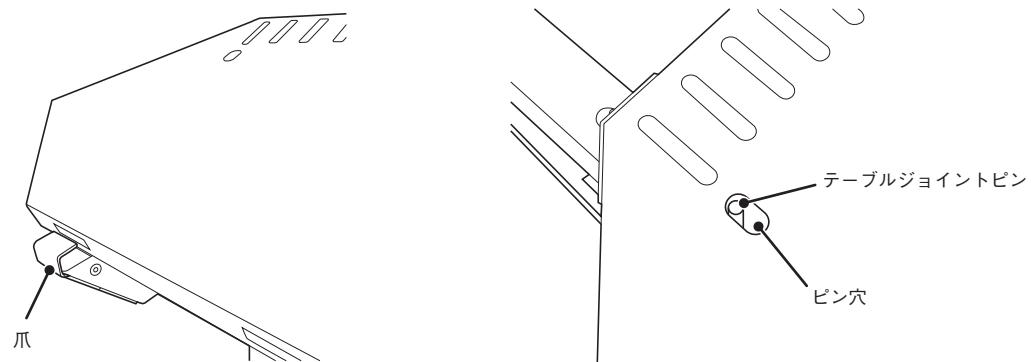
図 6



- ⑯ 一人が煙突を支えながら(※)もう一人が4本の煙突固定ベルトの長さを調整し、煙突の高さを下げるストーブに差し込みます。煙突が下方向に完全に停止するまでストーブに差し込んだ後で、煙突固定用のベルトに多少力がかかる程度までベルトを調整しなおします。



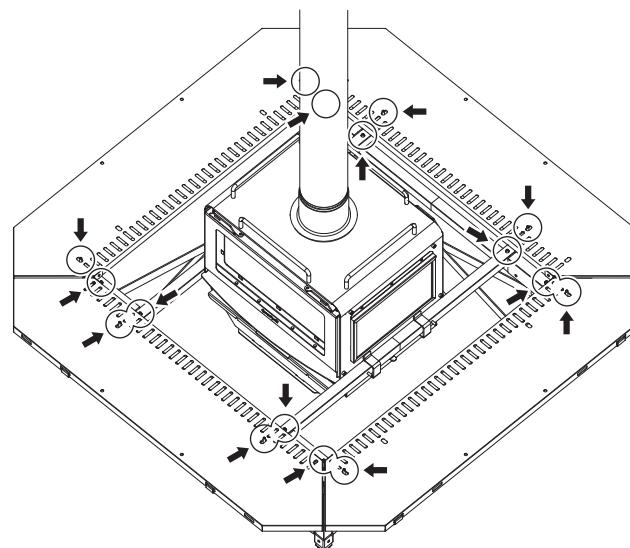
- ⑯ ストーブブリッジの爪にテーブルトップの爪穴を差し込み、ピン穴からテーブルジョイントピンの先端が出るように差込みます。(×4)



- ⑰ すべてのジョイントピンの先端が出ていることを確認してください。

※ジョイントピンの先端の確認は、テーブルの水平度の目安を確認するための機能です。

ピンが出でない場合は、テーブルが傾いている可能性があり、製品の機能が十分に発揮されません。ストーブベーススタンドのアジャスターでテーブルが水平になるように調整してください。

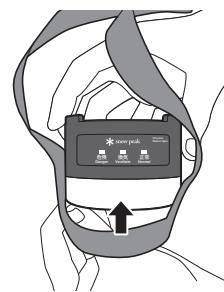


これでストーブの設置は完了です。次に一酸化炭素チェッカーの取り付けに移ります。

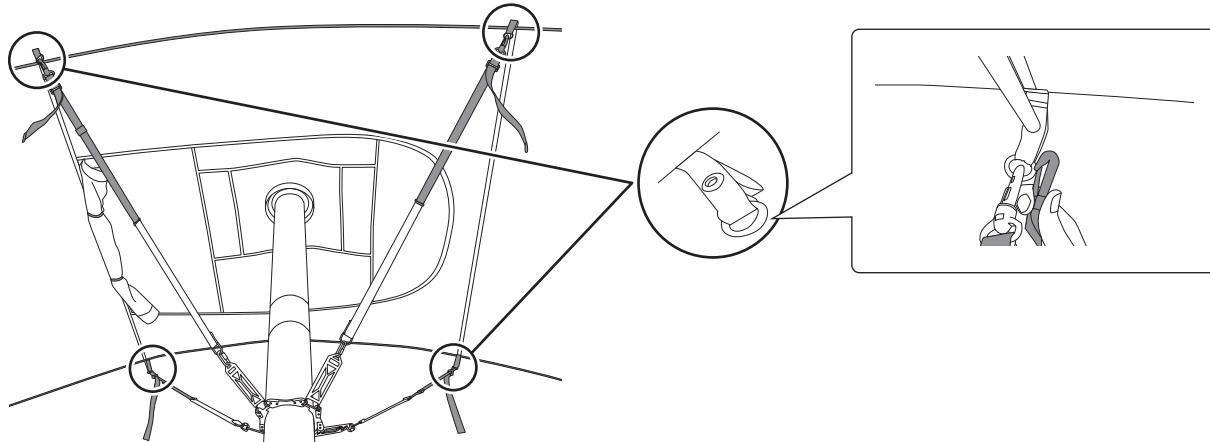
一酸化炭素チェックカーの取り付け方

- ① 図のようにハンギングベルトを一酸化炭素チェックカーへ装着します。
このとき、インジケータが隠れないように注意してください。

注意 インジケーターの保護シールを剥がしていない場合は、必ず剥がしてご使用ください。

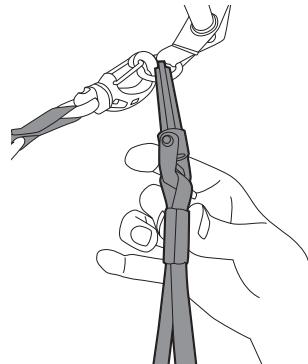


- ② 天井の煙突固定ベルトのリングに一酸化炭素チェックカー×2を取り付けます。リングは4か所ありますので、ストーブを挟んで対角上に配置されるようにしてください。



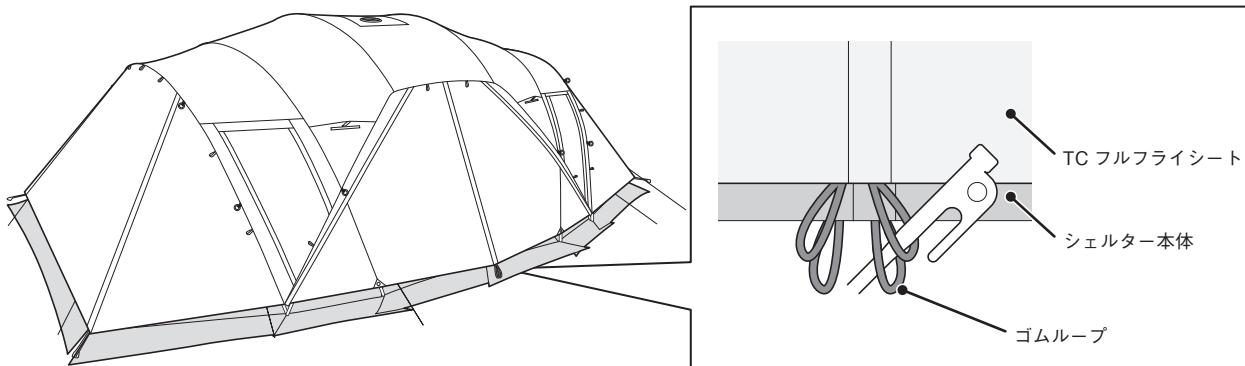
対角上の設置例

- ③ ハンギングベルトのゴムバンドを下ろします。



サイドドアパネルの固定

サイドドアを閉めてご使用する場合は、TCフルフライシートとシェルター本体のサイドドア裾部中央の左右どちらかのゴムループをペグで固定してください。



このゴムループを固定することでサイドドアパネルを素早く開けることが可能となります。
緊急時の脱出の為に必ずペグでの固定を行ってください。

使用前チェックリスト(ストーブに着火を行う前の確認)

ストーブに着火を行う前には、以下のチェックリストを使用し、シェルター・ストーブ・一酸化炭素チェッカーの状態確認を必ず行ってください。

<input checked="" type="checkbox"/>	ストーブの脚部が地面にしっかりと接地していることと煙突が取扱説明書通り組付けができるか。(組付けができない場合は、設置場所を変えてください)
<input checked="" type="checkbox"/>	ストーブベースのすべてのピンの先端が露出しているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	出入口周辺に荷物が置かれていないか。その他避難経路の妨げになる荷物がないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	シェルター内部の指定された窓が開けられているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	TCフルフライシートのベンチレーションが開いているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	一酸化炭素チェッカーの電源が入っているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	水の入った消防用バケツの用意はしたか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ストーブ本体のドアを開けた際、シャッターは降りてくるか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ペグが正しく打ち込まれているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ロープにテンションが掛かっているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	テーブルトップの上に電子機器、樹脂製品、その他熱の影響を受けやすいモノが置かれていないか。

◆ 操作方法

一酸化炭素チェックカー

■ 電池交換について

- ① 電池交換の際は、電源を切ってください。
- ② 電池カバーを開け電池2本を外し、表示を見ながら電池の極性(+)(-)に注意して2本とも新しい電池に交換してください。
- ③ 電池カバーを閉めてください。

■ 電源の入れ方

電池を入れ、電源ボタンを1秒間長押しし、ブザーが「ピッ」と鳴ります。その後1秒以内に電源ボタンを離すと電源が入ります。

■ 電源の切り方

電源ボタンを1秒間長押しすることで電源が切れます。

■ モード説明

●測定準備

電源を入れてから1分間は測定準備中です。1分経過後に測定が始まります。
測定準備中は電池残量やセンサの確認をしています。その間に測定はしておりませんのでご注意ください。

状態	ブザー音	LED	インジケータ
測定準備	無音	「白色」に点灯	「全色」に点灯
測定準備(低電池残量時)	「ピッ」と1秒おきに鳴り続ける	「白色」に点滅	「全色」に点灯

●測定モード

状態	ブザー音	LED	インジケータ
正常 (CO濃度0ppm～49ppm)	無音	消灯	「青色」に点灯
換気警報 (CO濃度50ppm～199ppm)	「ピー」と1秒おきに鳴り続ける	「黄色」に点灯	「黄色」に点灯
危険警報 (CO濃度200ppm～)	「ピー」と1秒おきに鳴り続ける	「赤色」に点灯	「赤色」に点灯

●低電池残量時の測定モード

電池残量が少なくなるとLEDが点滅します。
LEDが点滅している間も空気中の一酸化炭素濃度を測定していますが、電池切れのおそれがあるため速やかに電池を交換してください。

状態	ブザー音	LED	インジケータ
正常 (CO濃度0ppm～49ppm)	「ピッ」と1秒おきに鳴り続ける	「白色」に点滅	「青色」に点灯
換気警報 (CO濃度50ppm～199ppm)	「ピー」と1秒おきに鳴り続ける	「黄色」に点滅	「黄色」に点灯
危険警報 (CO濃度200ppm～)	「ピー」と1秒おきに鳴り続ける	「赤色」に点滅	「赤色」に点灯

●故障時

測定準備中にセンサーの故障を検出すると、故障モードになります。
空気中の一酸化炭素濃度を測定できないため、ただちにストーブの使用を中止してください。

状態	ブザー音	LED	インジケータ
故障	無音	「紫色」に点灯	「全色」に点滅

ストーブ

■ ドアの開閉手順

ドアを開ける際はハンドルを本体ドアハンドルの穴に差し込み(図1、図2)、差し込んだハンドルを90度内側にひねり、ドアをゆっくりと下におろして開けてください。(図3、4)

ドアを閉める際は逆の手順で行い、ドアを閉めた後は必ずハンドルは取り外してください。

注意 ドアハンドルが半開きになった際は必ずハンドルを使用しドアハンドルを最後まで押し込んでください。(図5)

図 1

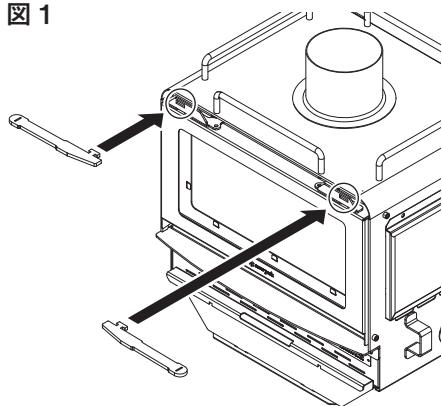


図 2

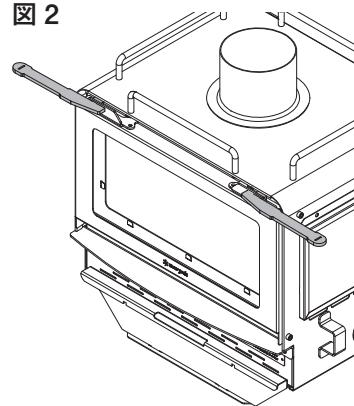


図 3

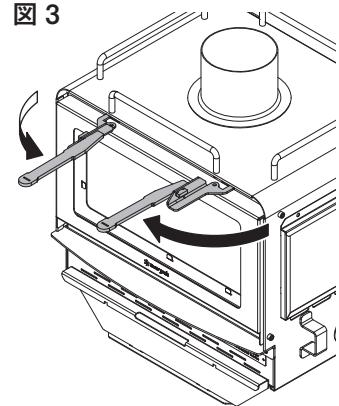


図 4

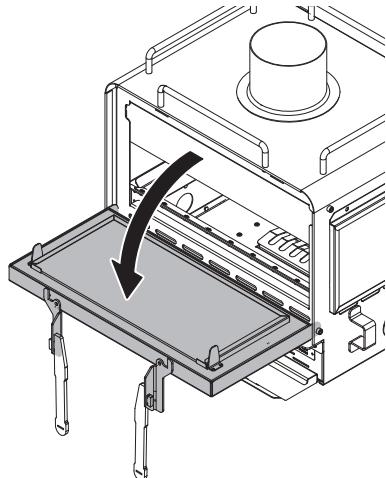
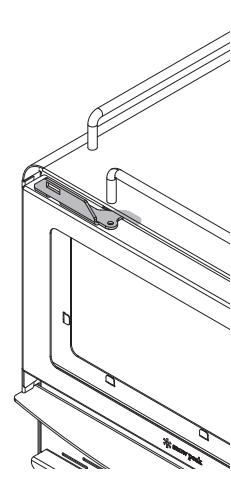
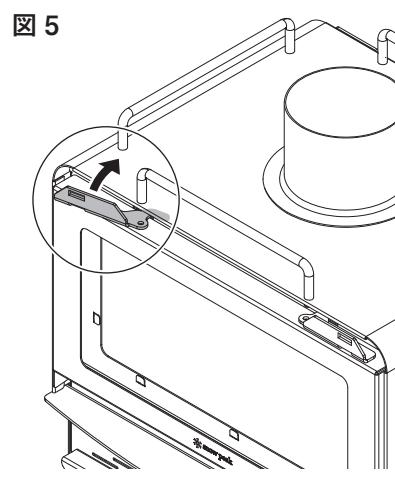


図 5



■ 灰受けの開閉手順

開け方:灰かきを灰受けのとて部分に差し込み(図1)、上に持ち上げるように引っ張り出してください。(図2)

閉め方:開け方の逆の手順で行い、灰受けの爪をストーブ本体にある穴にしっかりとはめてください。(図3)

※必ず灰受けの操作後は灰かきを取り外してください。

図 1

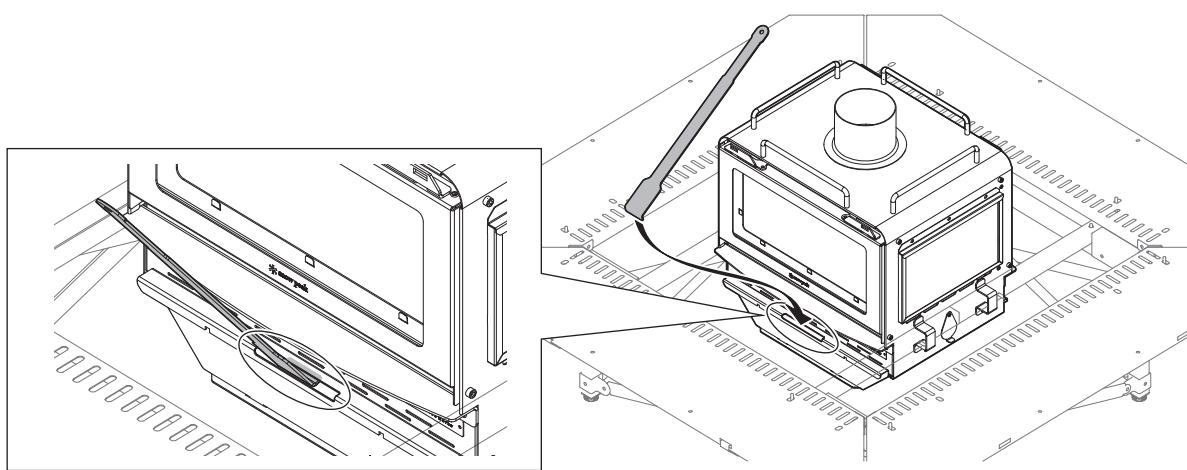


図 2

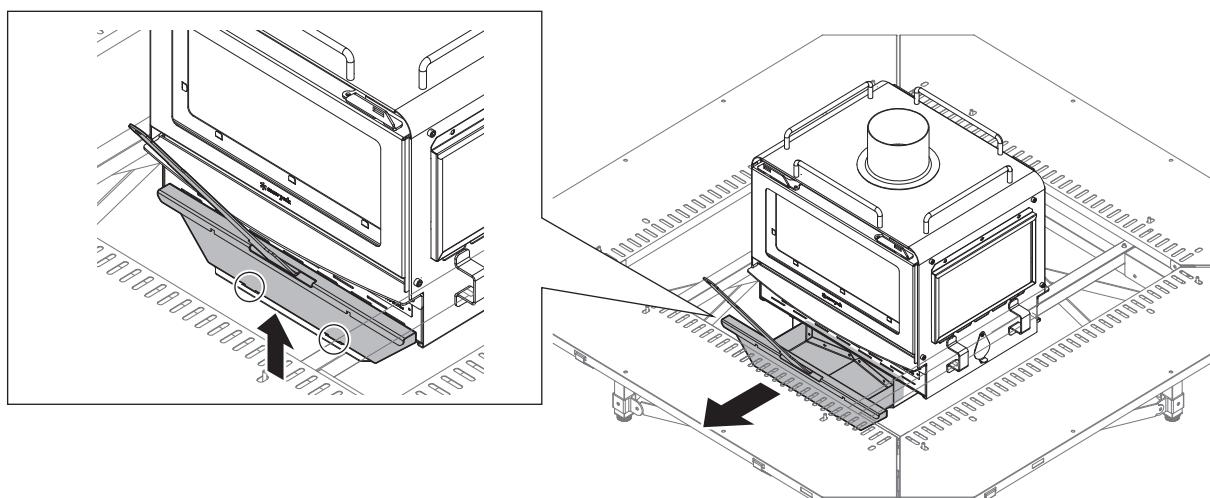
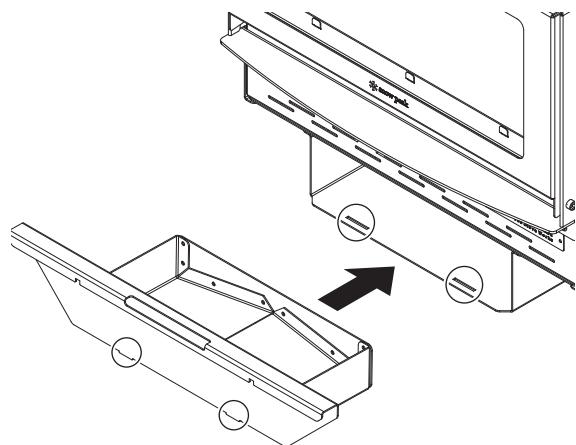


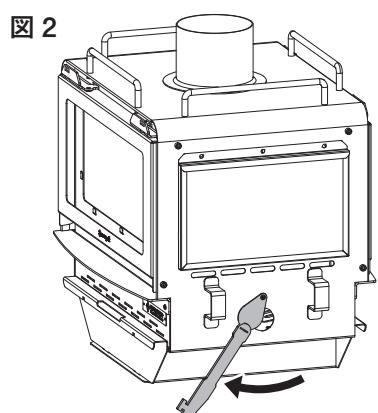
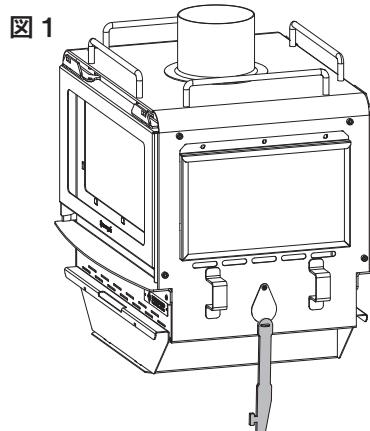
図 3



■ 着火穴の開閉方法

① ハンドルの穴を着火穴の蓋爪部分に差し込んでください。(図1)

② ゆっくりと回転させるように開けてください。(図2)
このとき一気に力を加えてしまうと着火穴の蓋が
変形するおそれがあります。開閉後は必ずハンド
ルは取り外してください。



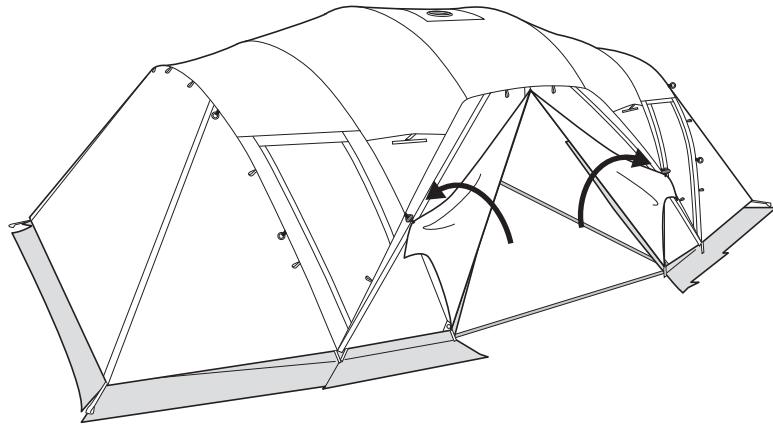
◆ 使用方法

ストーブの使用方法

危険 一酸化炭素チェックカは薪を着火する前に必ず電源を入れてください。

警告 着火をする前に、水の入ったバケツ、断熱性のグローブ、火ばさみは必ず準備してください。

■ 初めて使用するとき



- ① 初めて使用する際は図1のようにシェルターのサイドのサイドアパネルを両側完全に開放してください。この時、出入り口の荷物は整理し、緊急時の避難経路をつねに確保してください。
- ② 次ページ以降の着火方法に従い、ストーブに着火してください。
- ③ 本体から工業用油などから出る煙が出てきます。3時間ほど燃焼させてください。このとき薪を投入するとき以外はシェルターの外に待機してください。油が焼けている煙を吸うと気分が悪くなる可能性があります。

注意 薪の量が少ないと本体温度が上がらず油を焼き切ることができなくなります。つねに2次空気穴吹き出し口のラインまで薪をくべてください。(拡大図-1)

■ 着火方法A

拡大図1

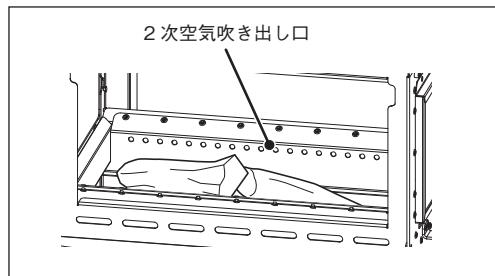


図1

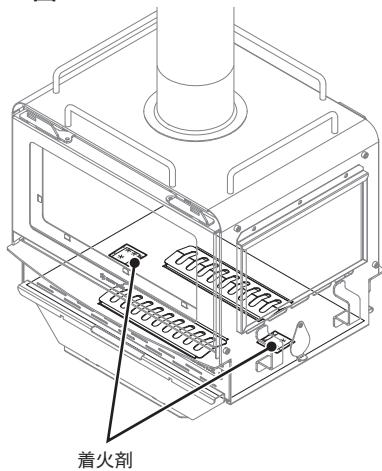
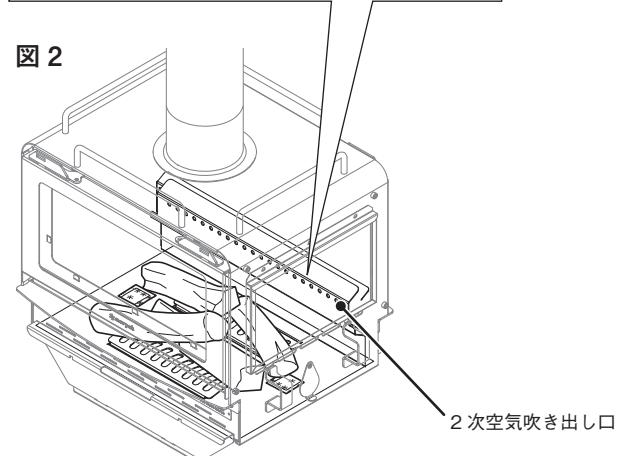
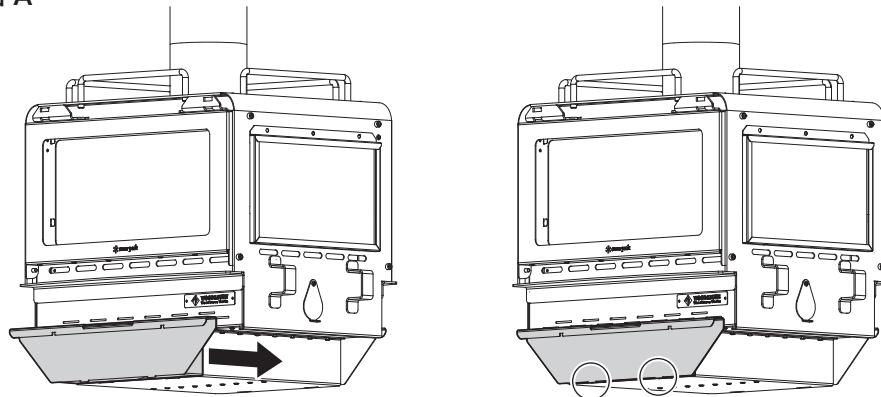


図2



図A



① ストーブ着火穴から着火できる距離に着火剤を設置してください。(図1)

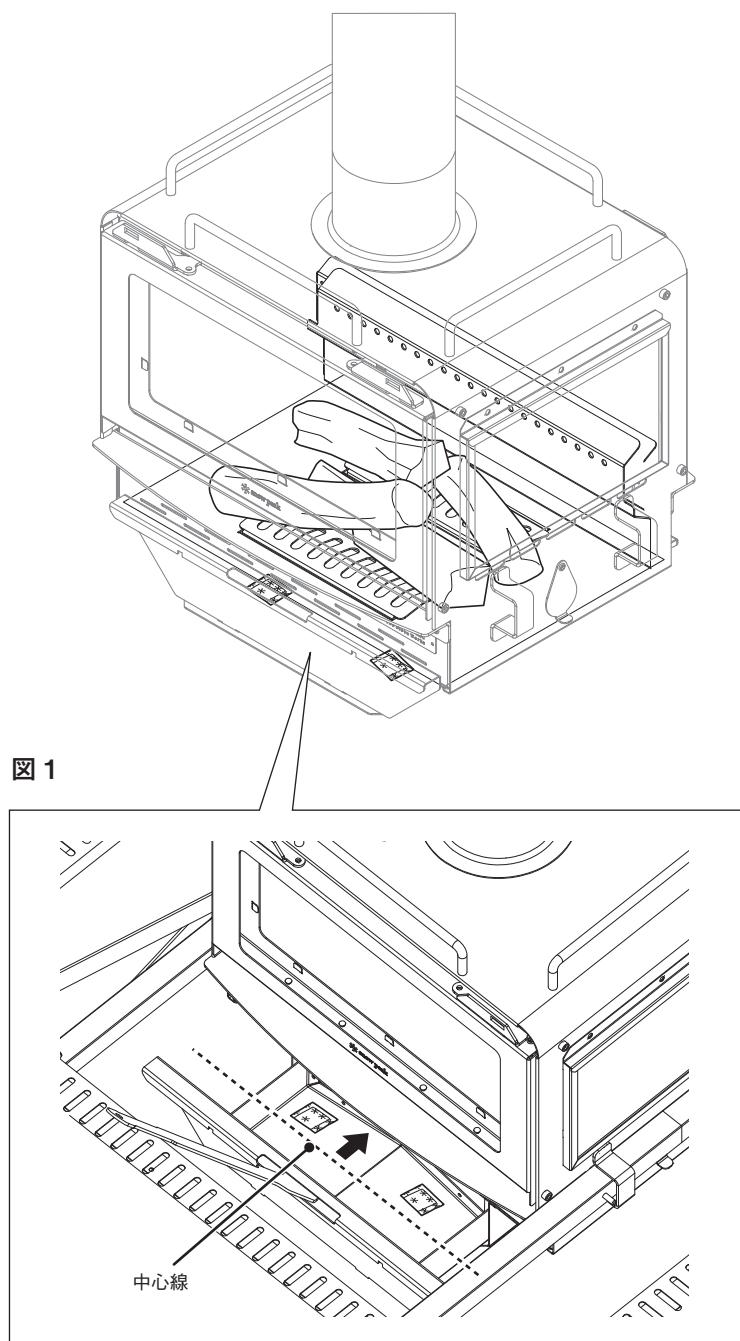
② 着火剤の火が届く位置に薪(針葉樹)数本(目安:4~5本)を設置してください(図2)。このときに、薪を入れすぎると空気がスムーズに入らず着火しないおそれがあります。また2次空気吹き出し口より高い位置まで薪は入れないでください。

③ 灰受けから空気をうまく取り入れるために図Aのよう灰受けを一度外に引き出し、灰受け下部にある爪が本体に当たるまで閉めてください。※このとき灰受けを最後まで締め切ってしまうと空気を取り込むことができず、着火できない可能性があります。

④ 着火穴を開けマッチなどで着火してください。着火剤に火が付いたら着火穴は必ず閉めてください。

⑤ ストーブ内の全ての薪にしっかりと着火したら、灰受けを完全に締め切ってください。

■ 着火方法B



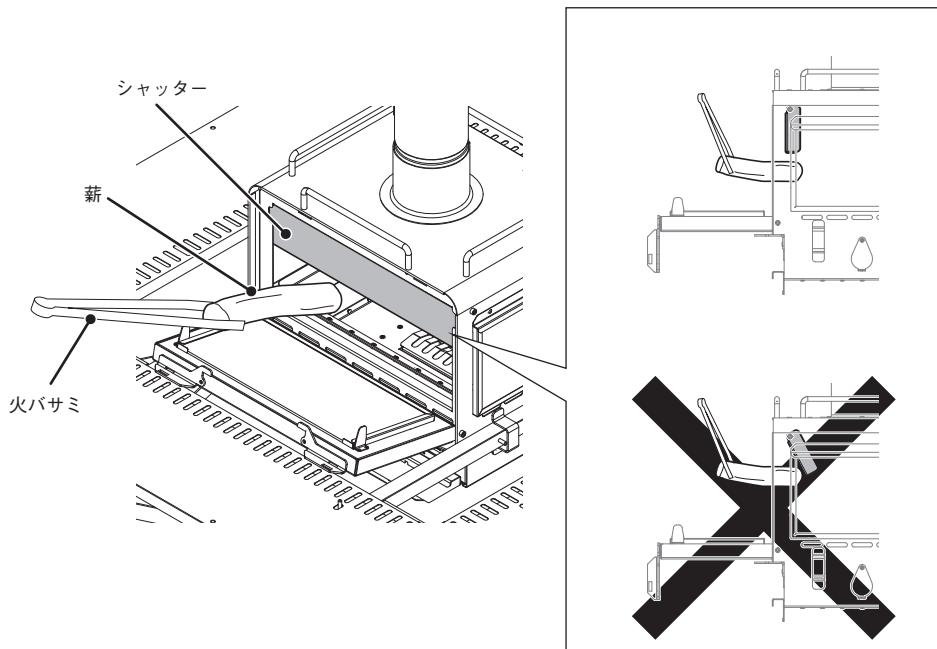
- ① 灰受け(両側)に着火剤を設置してください。このとき着火剤は中心線付近またはそれより奥側に設置してください。(図1)
- ② 薪(針葉樹)を数本(目安:4~5本)設置してください。このときに、薪を入れすぎるとうまく空気が入らず着火しないおそれがあります。また2次空気吹き出し口より高い位置まで薪は入れないでください。(着火方法Aの図2、拡大図-1)
- ③ 着火剤にマッチなどで着火してください。
- ④ 灰受けから空気をうまく取り入れるために灰受けを一度外に引き出し、灰受け下部にある爪が本体に当たるまで閉めてください。(着火方法Aの図のA)
※このとき灰受けを最後まで締め切ってしまうと着火に時間がかかることがあります。
- ⑤ ストーブ内の全ての薪にしっかりと着火したら、灰受けを完全に締め切ってください。

※A、Bどちらの方法でも着火できない場合は薪が湿っている可能性がございます。着火を続けると一酸化炭素が大量に発生してしまう可能性がございますので一度着火を止め、新たに乾燥している薪をご準備ください。

■ 薪を入れるタイミング

燃焼中ストーブに新しい薪を入れても2次空気吹き出し口よりも薪が高い位置にならないようであればドアを開け、火バサミを使用して薪(広葉樹)を入れてください。このとき、必ず片方のドアのみを使用してください。

警告 薪を入れる際にストーブ内部のシャッターを薪や火バサミで押し込まないでください。シャッターの角度が変わるとストーブ内の炎がドアの外に出てくるおそれがあります。



■ 火力調整

火力調整は薪の量で行ってください。ただし、2次空気吹き出し口よりも薪が高い位置には薪を入れないでください。もし新しい薪を足しても火力が強くならない場合は着火方法Aの図Aのように灰受けを少し開けてください。しっかりと薪が燃え始めたら再度灰受けは完全に締め切ってください。

■ 就寝時の操作

- ① 就寝前には両方のドア、着火穴がしっかりとしまっていることを確認してください。
- ② 灰受けから空気をうまく取り入れるために灰受けを一度外に引き出し、灰受け下部にある爪が本体に当たるまで閉めてください。(着火方法Aの図A)
※このとき灰受けを最後まで締め切ってしまうと薪がうまく燃焼できずに一酸化炭素がストーブ内に溜まってしまう可能性があります。
- ③ インナーテント内で寝る際は、必ず正面のパネルをメッシュにしてください。

シェルター内での照明機器の使用について

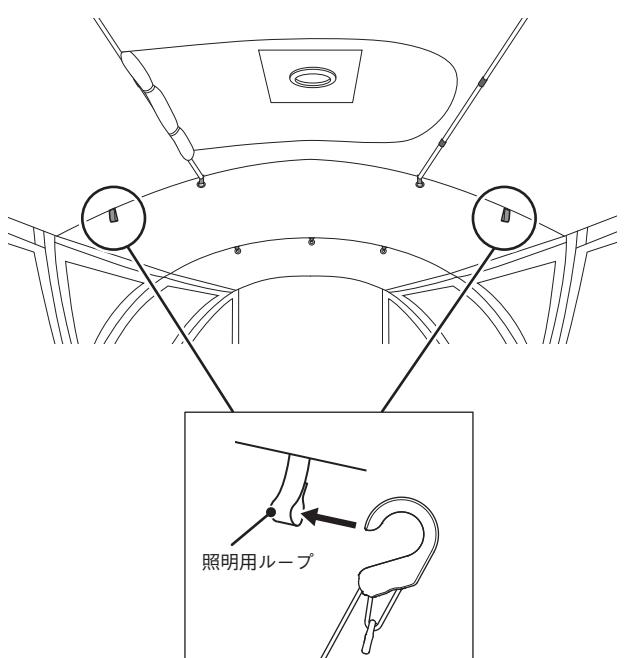
リゲルストーブを使用する際、LED照明は右図のランタンループに取り付けてください。

危険 リゲルProの内部でガス缶およびその他燃料を使用する燃焼機器・ランタンは使用しないでください。

警告 テーブルトップの上に照明機器を置かないでください。照明機器が異常加熱され火災や思わぬ事故の原因となります。

注意

- インナーリッジポール周辺および照明用ループよりも上に照明機器を設置しないでください。照明機器が異常加熱され火災や思わぬ事故の原因となります。
- 気候やその他の影響によってランタンループ周辺が高温になることがあります。薪ストーブの燃焼中は、取り付けた照明機器の表面温度や製品動作が適切かつねに注意してください。



撤収方法

■ 片付け方法

危険 消火を行う際は最後に薪を投入したときから、「最低3時間」経過した後に行ってください。ストーブが熱を持っているため大変危険です。

- ① シェルターのサイドドアパネルを両側とも完全に開放してください。(図1)
この時、ストーブと三角パネルの間にある障害になりそうなもの(例:ペグ、チェア)は全て片付けてください。鎮火できていない炭を外に運ぶときにつまずきやけどのおそれがあります。
- ② シェルターの外に水の入ったバケツを用意してください。バケツの設置は、鎮火する際、煙や火の粉が飛ぶおそれがあります。バケツの設置はシェルターや周囲の人やモノに被害が出ない位置にしてください。(図1)
- ③ ストーブを開け火バサミを使用しロストルを取り出してください。このとき、作業が難しい場合は、両側のドアを開いて作業してください。ただし、ドアの開閉は片側ずつ行ってください。(図2)
- ④ ロストルを取り出したら灰かきを使用し灰受けに全ての炭を落としてください。このとき、作業が難しい場合は、両側のドアを開いて作業してください。ただし、ドアの開閉は片側ずつ行ってください。(図2)
- ⑤ 全ての炭を灰受けに落とすことができたら、ハンドルを使用し灰受けを取り出し、水の入ったバケツの位置まで慎重に持っていき鎮火してください。灰の入った灰受けは重い可能性があるので必ず灰かきは両手で持ってください。(図3)
- ⑥ 撤収は設営と逆の手順で行ってください。

図 1

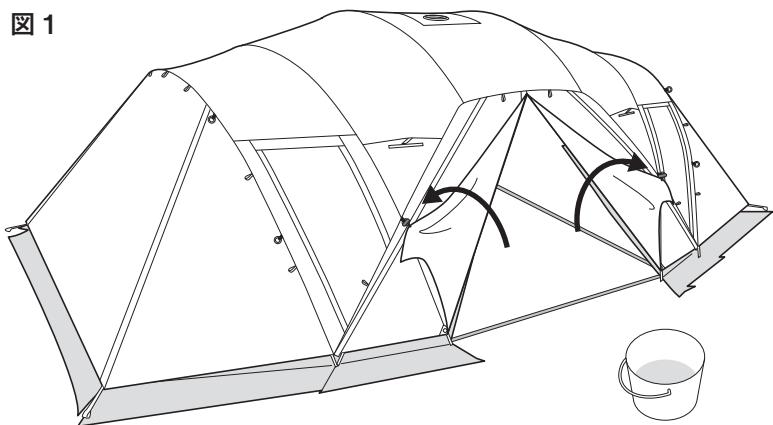


図 2

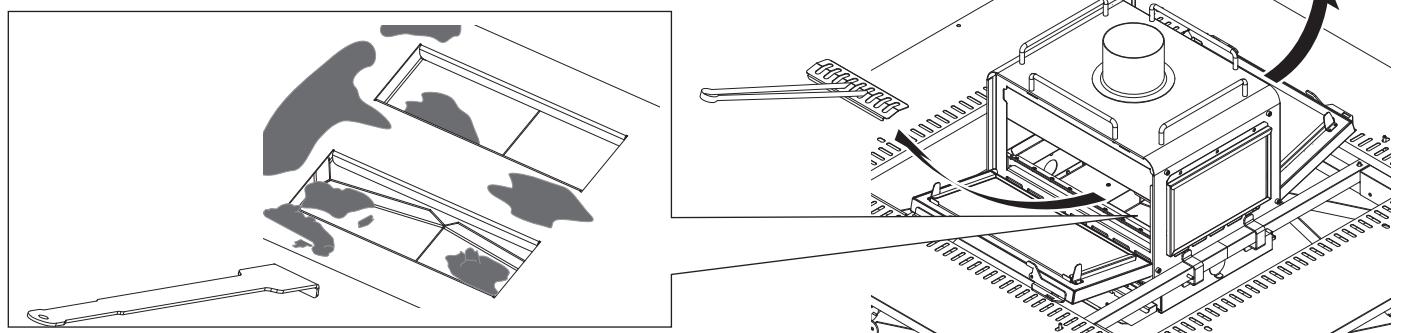
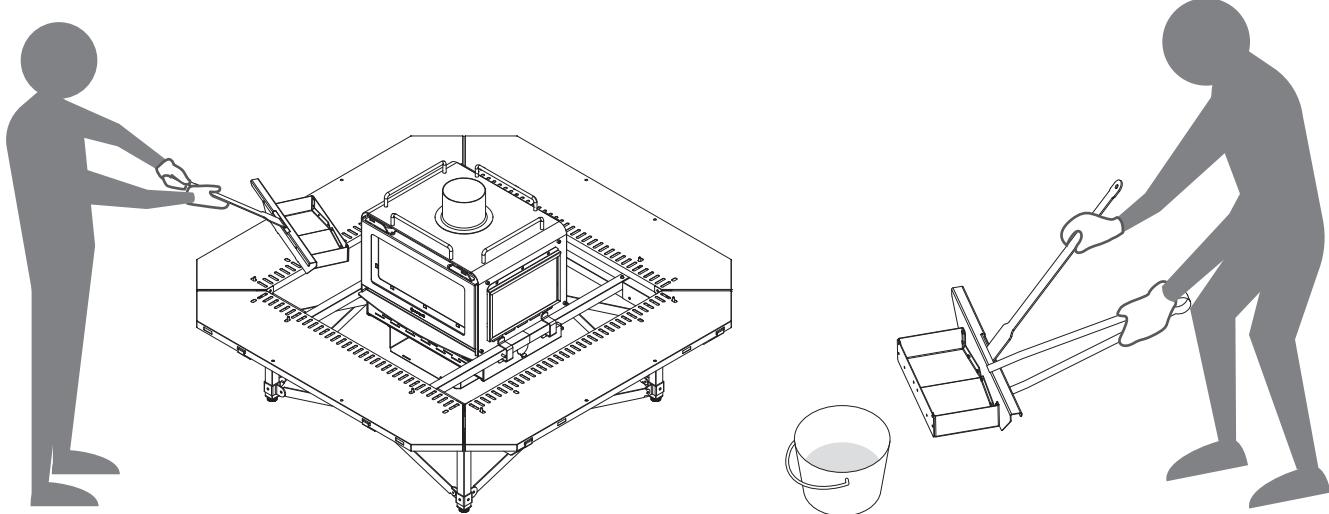


図 3



異常燃焼時の対応について

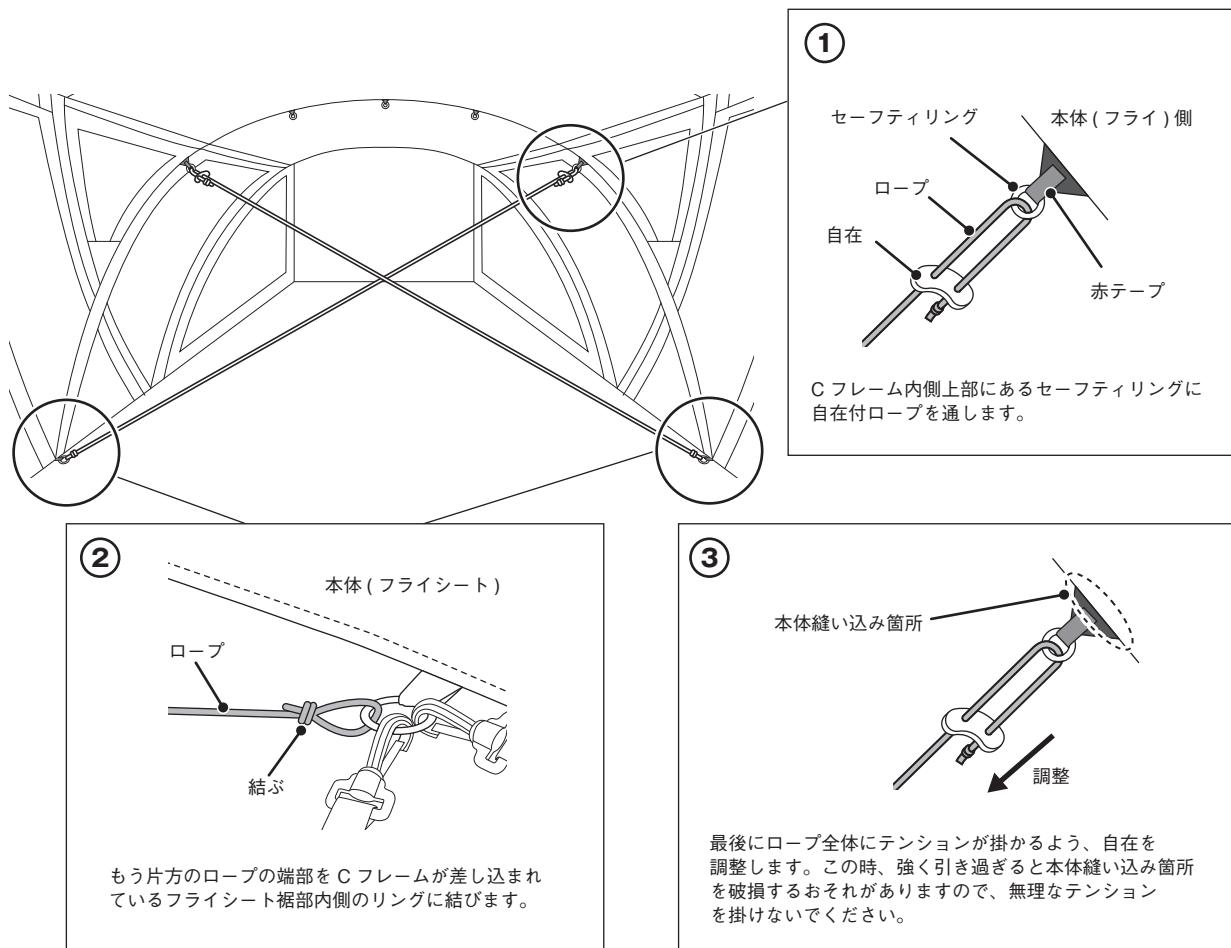
危険

- 以下の現象が起こった際は速やかにストーブの使用を中止し、シェルターの外に避難し鎮火するまでお待ちください。
- 燃焼中何らかの衝撃で煙突が抜けてしまった場合。
- 燃焼中ストーブのドアを閉めているのに幕内に異常な煙/異臭が発生した場合。

強風時の対応について

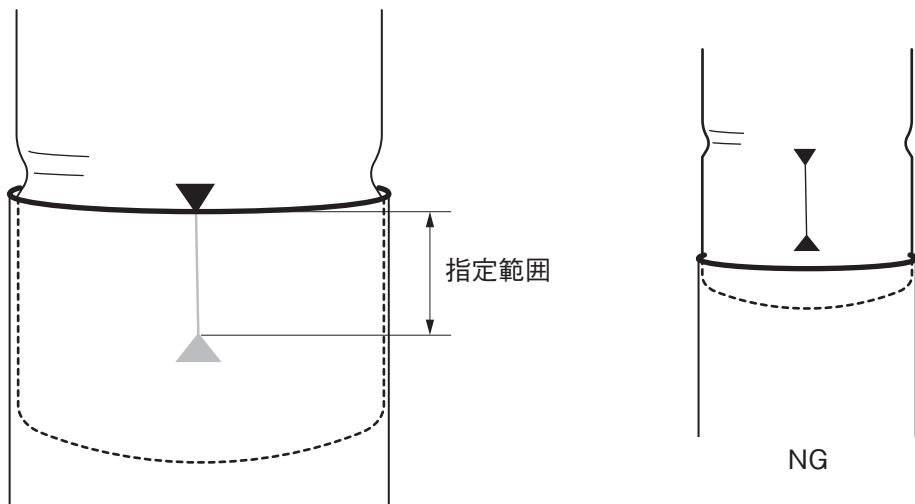
本製品には、強風時に側面からの風に対して安定性を保つセーフティリングを備えています。Cフレーム内側にお手持ちのロープ(自在付きロープ4~5m×4)を下図のようにセッティングします。

警告 あくまでも補助対策です。あらゆる天候に耐えられるものではありません。一次的な強風時や、即座に撤収が困難な場合にのみご使用ください。セーフティリングに体重をかけるなどしないでください。破損のおそれがあります。



④ 反対方向のセーフティリングにも同じ手順でロープを取り付けてください。

シェルターが強風にあおられたとき煙突が上下に動くことがあります。
その際、煙突の端部が図の指定範囲内にストーブ差込口に収まっていることを必ず確認してください。
瞬間に指定範囲を超えることがあった場合、ただちに薪の投入を中止し、周囲の環境に注意しながらベグやロープの状態を確認し、安全な場所への避難に備えてください。



◆メンテナンス方法

一酸化炭素チェッカー

- 本体の汚れは乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- 電池の端子が汚れた時は乾いた綿棒や布で拭き取ってください。
- 本体が濡れた時は乾いた柔らかい布で完全に拭き取ってから保管してください。
- 本体内部に水が入った場合はすぐに使用を中止して電池を抜いて弊社アフターサービスまでお問合せください。

ストーブ

- ストーブ、ベースフレーム及びテーブルトップを洗浄する場合は、硬い素材のたわしなどを使用すると傷の原因となります。
- 本製品をメンテナンス及び清掃する際は必ず手袋などの保護具を使用してください。
- 軽い汚れや水分が付着した場合は、速やかに乾いた布で拭き取り、十分に乾燥させてください。
- 塩分(調味料等)や、その他の薬品が付着した場合は、固く絞った布でよく拭き取り、十分に乾燥させてください。
- 保管をする場合は、直射日光の当たらない、風通しの良く湿気の少ない場所に保管してください。
- 雪中、雨中に放置などの長時間水分との接触、海辺など潮風が当たる場所への放置など状況により錆が発生する可能性がありますのでご注意ください。
- ストーブと煙突は濡れた状態で放置すると錆びますのでしっかりと乾かしてから収納ケースに入れ保管してください。
- ストーブ内は刷毛ブラシを使用し掃除してください。このとき、本体に傷が入るほどの硬いブラシは使用しないでください。
- 煙突一式は煙突の径にあった煙突用のブラシを使用し1シーズンに1回を目安に掃除を行ってください。煙突内に詰まる煤やタールは、不完全燃焼や煙道火災の原因になります。
- セラミックロープは2年に1度交換してください。セラミックロープ交換の際には、弊社アフターサービスまでお問合せください。

■ 窓ガラスの交換方法

注意 窓ガラスは消耗品です。2年を目安にセラミックロープとガラスを交換してください。必ず作業用手袋などを着用し作業を行ってください。本体の端部などでケガをするおそれがあります。

● ドア部分のガラスの交換方法

図1

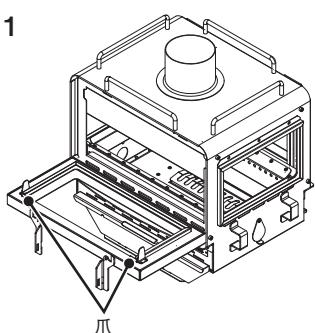


図2

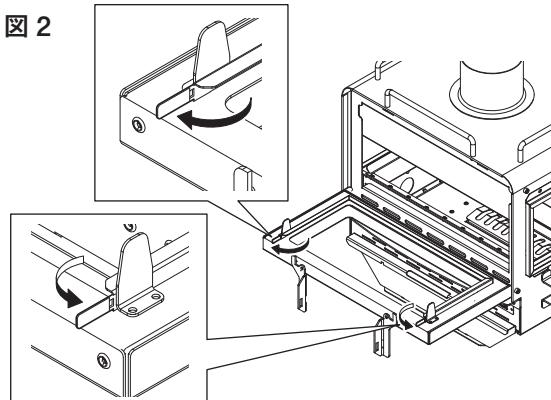


図3

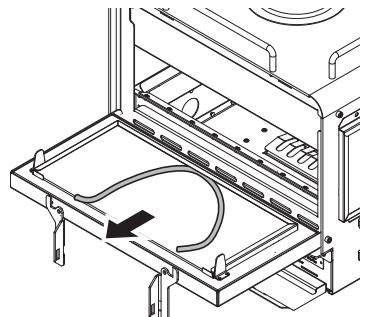


図4

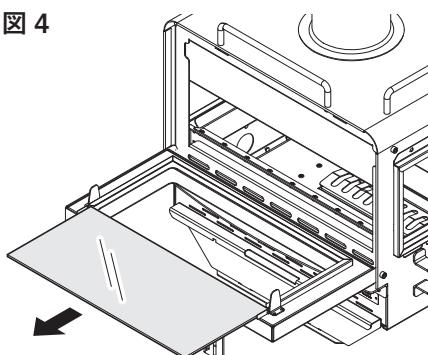


図5

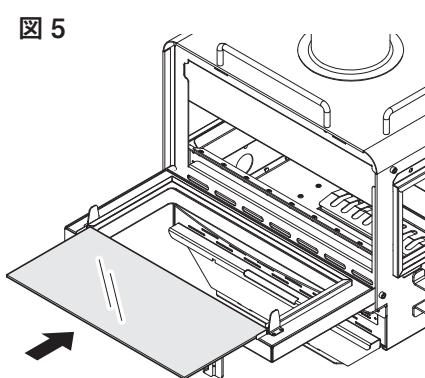


図6

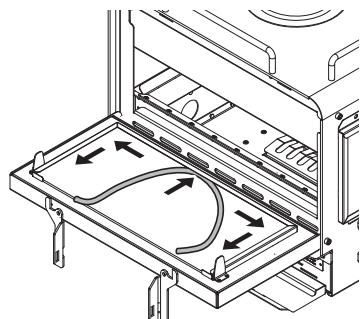
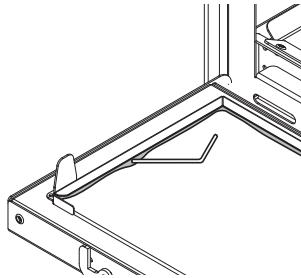


図7



① 図1のようにドアを開き指でゆっくりと爪を図2のように90度広げてください。

② 図3のようにセラミックロープを取り出してください。

③ 図4のようにガラス大をドア内側の広げた爪の箇所からゆっくりと抜き出してください。

④ 図5のように新しいガラス大を取り出したガラスの箇所にゆっくりと差し込んでください。

注意 ガラスの端部はもろく、挿入時に多少の欠けやキズが発生しますが、機能には影響ありません。

⑤ セラミックロープ(長)を半分におり、折り目とガラス長辺の中央を合わせ、図6のようにガラスと本体の間を埋めます。セラミックロープが入りづらい箇所は付属の六角レンチを使用し図7のように押し込んでください。このときガラスにキズをつけるないように気をつけてください。六角レンチがガラスに当たるとガラスが破損しケガをするおそれがあります。

⑥ セラミックロープをはめ込んだら図2で広げた爪を90度折り曲げ元の位置に戻してください。
何度も爪部分を開閉させると破損のおそれがあります。

⑦ ドアを閉めてください。

●サイド部分のガラスの交換方法

図 1

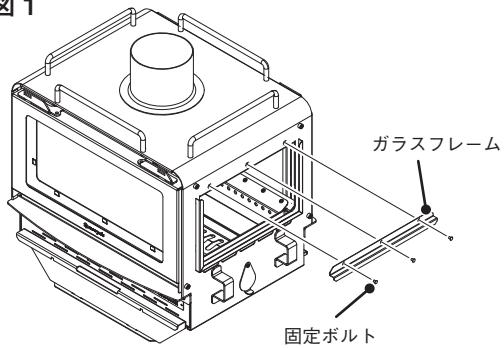


図 2

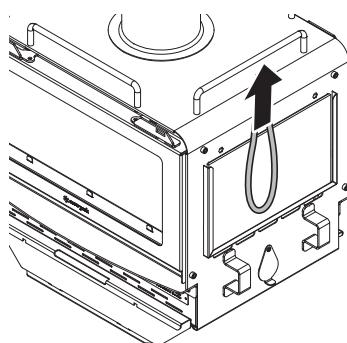


図 3

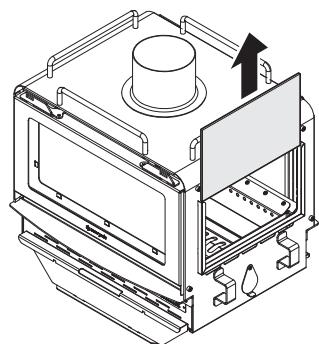


図 4

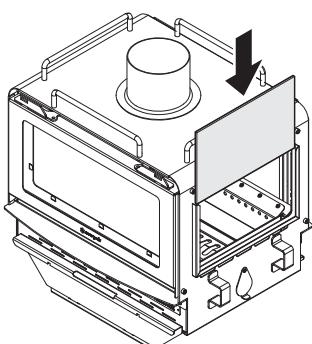


図 5

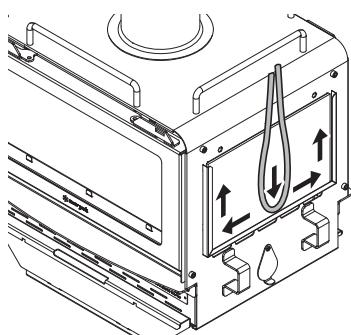
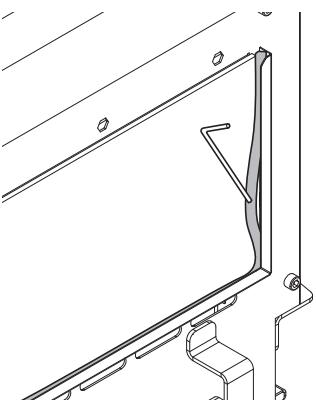


図 6



① 図1のように付属の六角レンチで固定ボルトを3箇所を取り外し、ガラスフレームを取り外してください。

② 図2ようにガラスフレームを取り外した隙間から、セラミックロープを取り出してください。

③ 図3のようにガラス小をゆっくりと上へ引き抜いてください。

④ 図4のように手順③で取り出したガラスの位置に新しいガラス小をゆっくりと差し込んでください。

注意 ガラスの端部はもろく、挿入時に多少の欠けやキズが発生しますが、機能には影響ありません。

⑤ セラミックロープ(短)を半分におり、折り目とガラス長辺の中央を合わせ、図5のようにガラスと本体の間を埋めます。セラミックロープが入りづらい箇所は付属の六角レンチを使用し図6のように押し込んでください。このときガラスにキズをつけるないように気をつけてください。六角レンチがガラスに当たるとガラスが破損しきがするおそれがあります。

⑥ 手順①で外した固定ボルトとガラスフレームを再度しっかりと取り付けてください。

■ 撤収・収納時の注意事項

- 十分に乾燥してから収納してください。
- 強風時は、風が収まるのを待ってから撤収してください。
- 必ずインナールームや併用していた製品を本体から取りはずしてから撤収をはじめてください。
- シェルターの中に何も入っていないこと、すべてのパネルや窓部のファスナーが閉まっていることを確認してから撤収をはじめてください。
- 撤収の前にすべてのビルディングテープが接続されていることを確認してください。次回設営時にペグダウンしやすくなります。
- フレームをグロメットから外す時はフレームがハネ返り危険です。フレームが真っすぐになるまで手を離さないでください。
- スリーブからフレームを取り出す際は、必ず押して取り出してください。※フレームを引いて取り出すと、スリーブの中で連結部が外れ生地を痛めることができます。
- フレームは必ず毎回中央付近から折りたたんでください。端から折りたたむとフレーム内部のショックコードの伸びや切れ、フレームの曲がりや折れの原因になります。
- ペグはすべて抜き、汚れを落としてペグケースに頭を下に向けて収納してください。フレームはすべてフレーム収納ケースに収納してください。むき出しの状態で収納すると、本体生地やキャリーバッグ等を痛めることができます。

■ 結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特にテントやシェルター等の限られた空間では、中にいる人間の水分が呼吸や汗などにより空気中に放出され水蒸気となり、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり、結露の発生する確率が高くなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のため、こまめに適時換気を行ってください。

■ 撥水・防水性能について

- 本体の生地には撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能（撥水の仕方や耐久性）に若干の差が見られる場合があります。また、ご使用を重ねますと撥水性能が低下する場合があります。性能が低下した場合は市販の撥水スプレー等を、それらの説明書をよくお読みの上ご使用ください。
- 防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜りなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

■ 紫外線の影響について

- 本体の生地にはUVカット加工を施しています。
※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。
- シェルターの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合いを超えたものは弊社でも修理できない場合があります。

■ メンテナンス・保管

- 長期間ご使用しなかった製品を再度お使いになる際は、製品および内容物をよく点検してください。不明な点がありましたら弊社ユーザーサービスまでご連絡ください。
- 本製品はポリエステル生地を組み合わせて使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。
- 濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落としてから保管してください。
- フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食し、強度が低下します。ジョイント部分はつねに清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。また、ポール内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
- フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。
- 高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
- ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使いつねに清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
- 小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書をよくお読みください。
- ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。
- シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるにしたがい剥離してしまう場合があります。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合、生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。PUコーティングと一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
- 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
- 次回のキャンプに備え、上記の通り十分に保守、点検をしてください。

品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期してますが万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正な価格で修理させていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は保証、修理できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

- 1.取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
- 2.素材の経年劣化による製品の寿命。
- 3.改造及び粗雑な扱いによる製品の故障。
- 4.不測の事故による製品の故障。
- 5.その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
- 6.ゴミやサビによる故障。
- 7.分解したことによる不具合の発生または破損。
- 8.落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
- 9.消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
- 10.他社製品との組合せによる故障。

修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
 - 1.保証対象の場合：往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
 - 2.保証対象以外の場合：往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

チェックリスト

■ 設営前チェックリスト

設営前には以下のチェックリストを使用し、不足品の有無、各製品の不具合、設置前の環境を必ず確認してください。

<input checked="" type="checkbox"/>	リゲルPro.ストーブプラスに含まれる全ての付属品が揃っているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	製品の設営に必要なペグの必要数は揃っているか。鍛造性ペグ:30cm以上×14、40cm以上×16、その他ペグ×4(遮熱シート固定用ペグ)
<input checked="" type="checkbox"/>	リゲルPro.ストーブプラスに含まれる全ての付属品に破損や消耗がないか。(製品製造時に発生する表面のキズ等は含まない)
<input checked="" type="checkbox"/>	一酸化炭素チェッカーに電池が入っているか、予備の電池があるか。一酸化炭素チェッカーの電源が入るか。(P.32)
<input checked="" type="checkbox"/>	シェルターおよびストーブの設営予定場所は地盤のしっかりとした平坦な地面であるか。
<input checked="" type="checkbox"/>	冬季および積雪環境での使用時、シェルターの設営予定場所の圧雪を行ったか。ストーブ設置場所は除雪を行ったか。

■ 使用前チェックリスト(ストーブに着火を行う前の確認)

ストーブに着火を行う前には、以下のチェックリストを使用し、シェルター・ストーブ・一酸化炭素チェッカーの状態確認を必ず行ってください。

<input checked="" type="checkbox"/>	ストーブの脚部が地面にしっかりと接地していることと煙突が取扱説明書通り組付けができるか。(組付けができない場合は、設置場所を変えてください)
<input checked="" type="checkbox"/>	ストーブベースのすべてのピンの先端が露出しているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	出入口周辺に荷物が置かれていないか。その他避難経路の妨げになる荷物がないか。
<input checked="" type="checkbox"/>	シェルター内部の指定された窓が開けられているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	TCフルフライシートのベンチレーションが開いているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	一酸化炭素チェッカーの電源が入っているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	水の入った消火用バケツの用意はしたか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ストーブ本体のドアを開けた際、シャッターは降りてくるか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ペグが正しく打ち込まれているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	ロープにテンションが掛かっているか。
<input checked="" type="checkbox"/>	テーブルトップの上に電子機器、樹脂製品、その他熱の影響を受けやすいモノが置かれていないか。

不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社
ユーザーサービスまでお問い合わせください。
スノーピーク **0120-010-660**(9:00~17:00)
ユーザーサービス Email:userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク
〒955-0147 新潟県三条市中野原456
Tel. 0256-46-5858 / Fax. 0256-46-5860
www.snowpeak.co.jp

MADE IN CHINA